

2026年度
事業計画書

自 2026 年 1月 1日
至 2026 年12月31日

目次

2026年度 一般社団法人神戸青年会議所 組織図

2026年度 一般社団法人神戸青年会議所 運動について

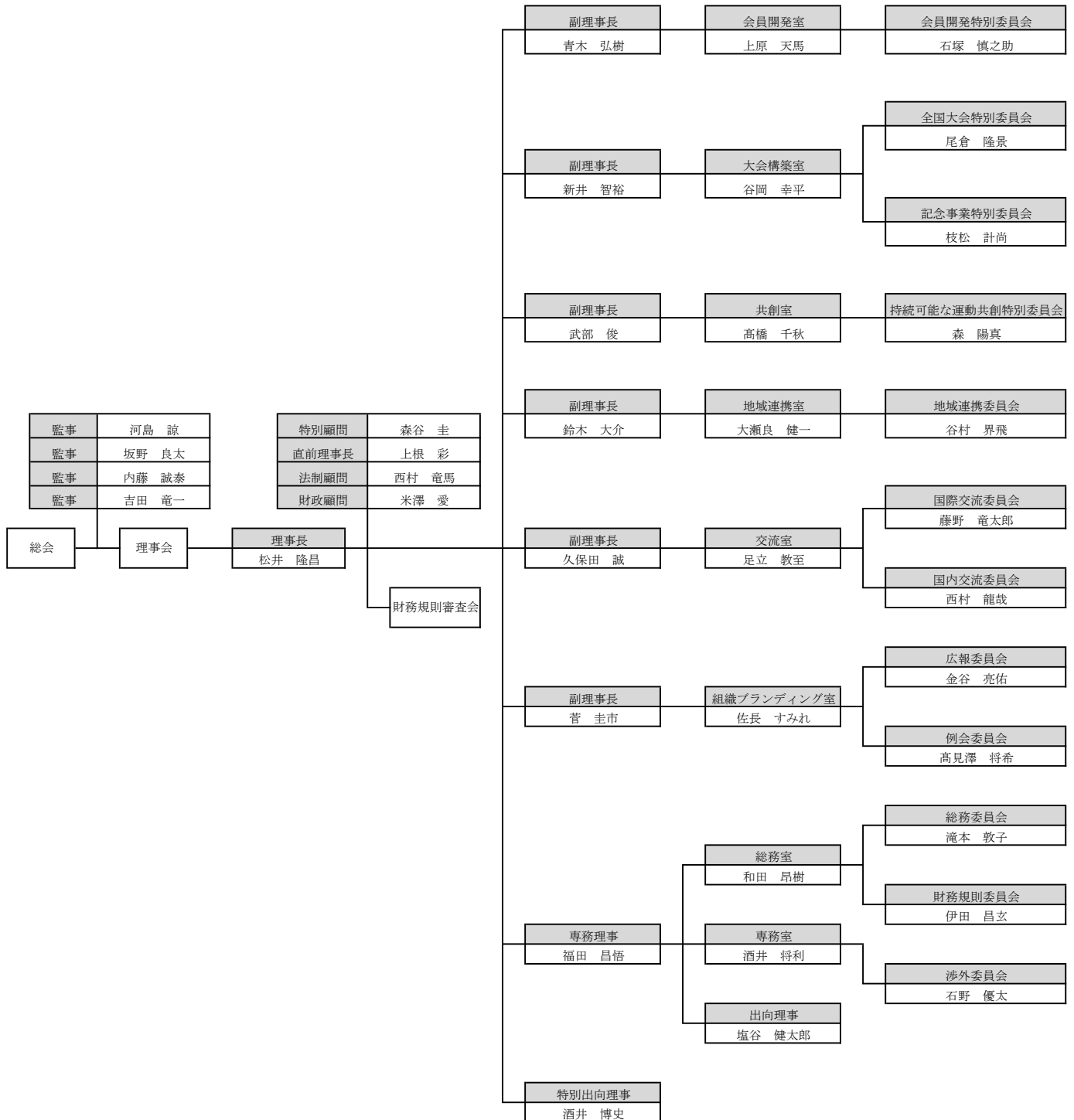
2026年度 一般社団法人神戸青年会議所 理事長基本方針

2026年度 一般社団法人神戸青年会議所 室方針

2026年度 一般社団法人神戸青年会議所 委員長所信

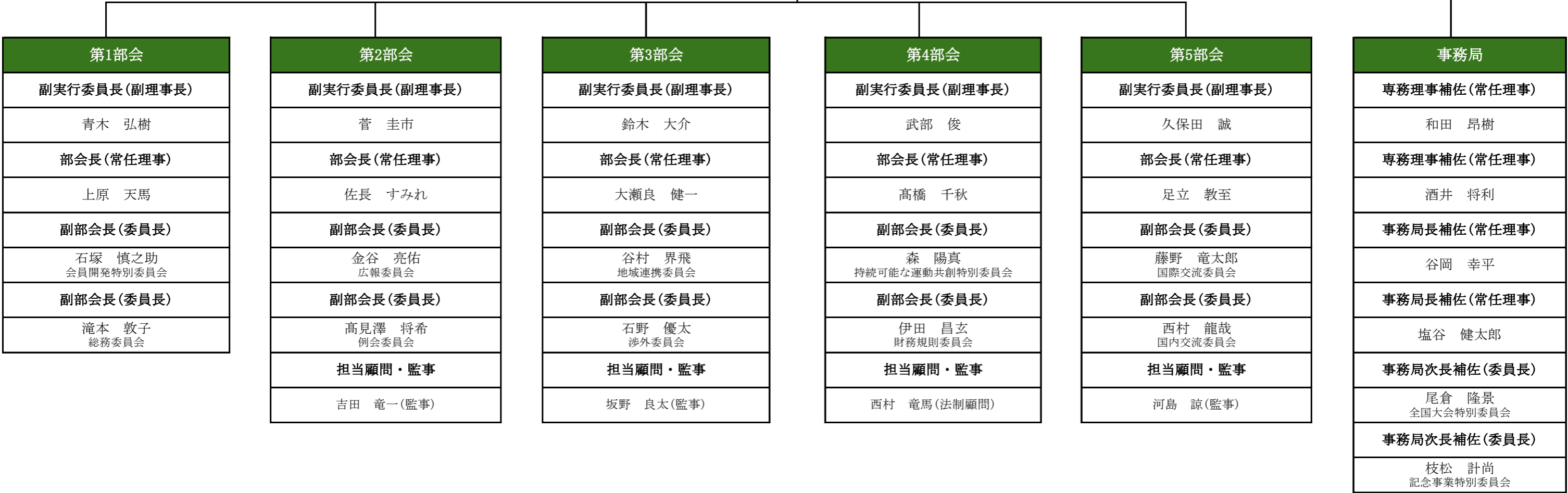
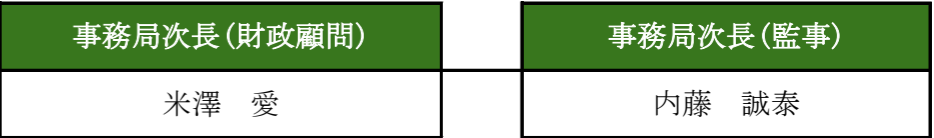
2026年度 一般社団法人神戸青年会議所 出向者名簿

2026年度組織図



2026年度第75回全国大会神戸大会実行委員会 組織図

※()はLOM役職



2026年度 理事長基本方針

Progress

～共創都市神戸へ～

1. はじめに

「我々は今、なぜここに立っているのか？」

その答えは、空襲、震災、パンデミックという幾多の逆風を乗り越えてきた、このまちと人の歴史のなかにあります。私たちが今立つこの場所は、先人たちの努力の上に成り立っており、その歴史への深い感謝こそが、私たちの活動の原点です。

この感謝は、新しい風を受け入れ、自分たちの暮らしに馴染むよう磨き上げてきた「混ぜ、結び、発信する」という神戸独自の気質に繋がっています。先人の遺産を継承し、時代に合わせて編み直すこの精神を、今こそ我々の運動の中核に据えなければなりません。

私たち青年会議所はこれまで、人とまちの成長と発展に挑戦し、寄与し続けてきました。しかし、社会課題が多様化・複雑化する現代において、その実績にあぐらをかくことは許されません。だからこそ、目先の課題解決にとどまらず、次の世代が誇れる神戸の姿を描き出し、パートナーシップを通じて実現へと導いていく必要があります。神戸の気概を呼び覚まし、垣根を越えて人を結び、明るい豊かなまちを創造する「共創都市神戸」の実現を目指します。

「Progress」。それは、単なる進歩を意味する言葉ではありません。受け継いだものへの感謝を胸に、出会う人と手を取り、試行錯誤を重ね、その学びを次の世代へ紡ぐ日々の営みです。我々は、誰もが参加できる社会開発の入口を開き、挑戦が根付くように支え、その成果をまち全体の喜びへと変えていきます。神戸は、多様性を受け入れる勇気と、人を結ぶ温かさがある限り、何度でも新しい物語を生み出せる。この確信を胸に、一年間力強く歩みを進めてまいりましょう。

2. 新たな挑戦の場で、地域にリーダーを生み出す共創を実現

人が変われば、まちは必ず変わります。だからこそ、私たちは人づくりにこだわります。答えのない課題に正面から向き合い、多様な人々と協力し、最後までやり遂げる。そんな人財こそが、地域の希望となると信じています。

その基盤は、普段所属する組織や世代といった垣根を越え、多様な人々と交わる体験です。自らの当たり前が揺さぶられる体験は、相手の視点で物事を考える力を育み、異なる価値観を尊重する心を根付かせます。そして、事実と想いを丁寧に聴き取る傾聴力、やり遂げるための決断力と責任感を磨き上げます。会員開発とは、神戸のまちづくりに不可欠な、豊かな感性と理想を実現する行動力を備えた人財を育むことです。

その行動がまちの空気を変え、若い世代が「自分も挑戦してみたい」と自然に思えるような、魅力ある背中を示していく。この連鎖を生み出し続け、地域に新たなリーダーを送り出すところこそが、私たちの使命です。

3. 積層の想いを結ぶ全国大会を共創

人が集う場は、希望が動き出す起点です。全国大会は、神戸が積み重ねてきた歴史と誇りを、明日への希望へと編み直す絶好の機会です。私たちは、全国の仲間たちと手を携え、構想から運営、発信に至るまで、共に大会を創り上げていきます。そして、そこで生まれる共感を、次の連携へと繋げていきます。誰もが傍観者ではなく、物語を共に進める当事者として関わられる場を用意し、神戸のまちの活力に触れることで、自ら行動しようという気持ちが芽生えるような大会を目指します。

その中心にあるのは、人と人との関係の質です。出会いが自分ごとになったとき、言葉は熱を帯び、歩幅は揃います。大会を通じて生まれた絆と想いを、持続可能な地域を創るための力へと変えていきます。

全国大会の記念事業は、大会で生まれた熱意を、市民へ広げ、共感を得る機会となります。それぞれの挑戦が結集し、応援が参加へ、参加が共創へと変わっていく。そんな循環を生み出していきます。地域が受け継いできた神戸らしさを大切にしながら、新しい表現で魅力を発信し、このまちに暮らす誇りと挑戦する気概を、文化として育みます。こうして生まれた想いが人々の暮らしに溶け込むとき、神戸のまちは、より確かな未来へと近づいていきます。

4. 成功事例を活用した持続可能な運動を共創

私たちは、神戸のあるべき姿を描き、そこから逆算して運動を計画します。目先の課題解決にとどまらず、目指すべき未来像を共有し、そこへ至る道筋を整える。そのために、全国の成功事例とその英知に学び、神戸の歴史や文化、市民の気質に照らし合わせながら、神戸ならではの形に最適化します。ゼロから始めることに捉われず、既に効果が証明されている運動を丁寧に読み解き、志を同じくする仲間たちと共に活動できる仕組みを整えることで、活動の速度と精度を高めます。

この取り組みは、単に運動のやり方を学ぶだけではありません。持続可能な課題解決の在り方を見つめ直し、パートナーの参画から次代の担い手になるまでを支援します。確かな一歩から始め、検証を重ねる。その実践から得た学びは、大小を問わず全てが、次代の挑戦を生む源泉となるのです。

そうして挑戦のハードルを下げ、成功の蓄積を増やしていく。学びが勇気に、勇気が行動に、そして行動が誇りへと変わる。私たちは、その橋渡し役を担い、年度を越えて続いていく運動の礎を築きます。

5. 産官学民が共創する、まつりの進化を実現

地域のまつりは、まちの心を映す鏡です。そこには、世代を越えて受け継がれてきた誇りと、今を生きる私たちの挑戦が映し出されます。だからこそ私たちは、まつりを賑わいの場としてだけではなく、人と人が結ばれ、次の一年への希望を手渡す場として捉えます。神戸のまつりとして定着している「みなとまつり」を中心に、創始の想いを見つめ直し、時代の変化に合わせてその仕組みを未来へと継承できる形へと発展させ、持続可能な運営を目指します。

見るまつりから参画するまつりへ。そのために、まつりの運営体制そのものを見つめ直し、産官学民が同じ目線で関わる、新しい運営体制の形を模索します。誰もが参画できる「地域で創る、みんなのまつり」として育てるために、関わる一人ひとりが役割と責任を分かち合い、得られた学びを次の一年へと着実に受け渡していく。規模の大小にこだわることではなく、関わりの深さと、そこから生まれる誇りを大切にしていきます。

まつりを通じて結ばれた信頼を、地域での確かな行動へと昇華させ、翌年の取り組みの芽を育てる。伝統を受け継ぎながら磨き、革新と調和させる。まつりが育む一体感を基盤として、神戸への郷土愛が一年を通じて積み上がっていく未来を、地域と共に創り上げていきます。

6. 交流を通じ、神戸の価値を高める共創を推進

私たちは、先人たちが築いてきた人と人との繋がりに、感謝を忘れてはなりません。その縁と関係性が、今の神戸を支える土台となっています。その土台があるからこそ、私たちの視野は広がり、未来の選択肢も増えるのです。

看板としてだけでなく、日々の暮らしのなかで実感できる豊かさを育み発信するための国際都市として、国内外の様々な地域の仲間たちと顔の見える関係を丁寧に築いていきます。形式的な交流にとどまらず、互いの強みを持ち寄って学び合い、いざという時に支え合える、確かな絆を目指します。

若い世代が、実際に現地を訪れ、見て、聞いて、語り合う。その経験こそが、自分の言葉で未来を語る力を生み出します。そして、多様な背景を持つ人々との交流が、より広い視野を育み、それを自らの力へと変えてくれるはずです。

私たちは、外に開くと同時に、内を耕すことを大切にします。出会いを信頼へ昇華し、日々の実践に結びつけていく。この流れを絶やすことなく育て続け、国際都市・神戸の魅力をさらに磨き、未来へ誇れる人と人の繋がりとこの名の資産を積み重ねていきます。

7. 学びと発信を通じた信頼関係の共創を確立

広報は、私たちの活動を地域と結ぶ架け橋です。計画段階では、目的や参加方法をわかりやすく示し、私たちの想いを言葉にして伝えます。実施後は、誰と、何を、どのように進めたのかを丁寧に共有し、その過程と学びを記録として残します。発信は一度きりではありません。告知から実施、そして共有へ。この流れを大切にし、私たちの活動に継続的に関心を持っていただけるよう努めます。こうした発信が参画の入口を広げ、共創の想いを育みます。

例会は会員が学び、成長するための大切な時間であり、まちを共に創るリーダーを育てる貴重な機会です。机上の学びだけでなく、地域の様々な方々と共に事業を企画・運営する場を通じて、組織の枠に捉われない学びの機会を創出します。現場の実感と大きな構想が結びついたとき、そこに共通の言葉が生まれ、信頼が育ちます。その信頼こそが、私たちの活動の質を高め、継続的な共創へと発展します。

ブランドとは、飾りではなく、社会との約束です。私たちは一人ひとりの振る舞いを通じてその約束を示し、誠実な言葉と行動を積み重ねていきます。組織内外の垣根なく、情報を共有し語り続けることが、外には信頼を、内には誇りを育てると信じています。

8. 挑戦を支える共創の基盤を構築

挑戦を続ける組織には、その挑戦を支える、しなやかで強い背骨が必要です。正確な手続き、整然とした記録、そして誰にでも説明できる計画。これらは、自由な発想と迅速な行動のための土台です。組織の規律は、私たちに縛るものではなく、私たちの志を社会からの信頼へと変える大切な手段です。だからこそ、法令や規律の遵守を会員全体が徹底できる環境を整え、意思決定の透明性を高め、限りある資源を丁寧に扱い、情報の管理には細心の注意を払います。公正かつ誠実な姿勢が、外には安心を、内には誇りをもたらすのです。

組織は生き物です。社会の変化や活動から得た学びに合わせて、常に仕組みを磨き続ける必要があります。人が変わっても歩みが止まらないように、困難に直面しても揺らがないように、誰もが役割を果たしやすいように。組織基盤の確実さが、現場での活動の質を高めます。私たちは、組織を整え、守り、そして更新し続けることで、挑戦する仲間たちの背中を力強く支えます。この積み重ねが、神戸の未来に向けた一つひとつの取り組みを、市民の皆様から安心して託していただける運動へと育てていくと信じています。

9. むすびに

1995年、震災の朝の匂いを、そして静まり返ったまちの色を、私は決して忘れません。当たり前の日常が音を立てて崩れ去り、大切な友の笑顔さえも奪われたあの朝。私は、あまりに大きな喪失感の前に、ただ立ち尽くすことしかできませんでした。

絶望に染まったまちで、それでも人々は肩を寄せ合い、光を探していました。そこに助けの手が集まりました。神戸のまちは、あの光景に救われたのです。後になって、全国、そして神戸青年会議所の先輩諸兄姉が、支援と復興のために奔走されていたことを知りました。あのとき、何もできなかった私自身が、実はその活動によって守られ、育てられていたのだと気付いた瞬間に、このまちのために進むべき道があるのだと確信しました。

だからこそ、私は今ここに立っています。人々の善意を束ね、未来へ続く力へと変える「器」が、このまちには絶対に必要です。

あれから31年の時が経ち、神戸は新たな一步を踏み出す時を迎えています。私たちは、復興の歩みを礎としながらも、現在に捉われることなく、あるべき神戸の未来像を自由に描き出します。そして、その実現のために、あらゆる垣根を越えたパートナーシップを活用し、持続可能なまちづくりを進める。それこそが、今を生きる私たち青年世代の責務です。

Progress——継承を力に、革新を合図に、出会いを行動へ。

神戸から、次の世代が誇れる未来を、共に創ってまいりましょう。

一般社団法人神戸青年会議所 第68代理事長予定者

松井 隆昌

会員開発室 室方針

室 名：会員開発室

室長(担当常任理事)：上原 天馬

「なぜ神戸青年会議所は仲間を集め続けなければならないのか。」それは、このまちが幾度となく困難に直面するたび、人々が結束し、新たな挑戦に立ち向かうことで未来を切り拓いてきた歴史があるからです。私たち神戸青年会議所は、その歩みを受け継ぎ、人々の善意を束ねて未来を切り拓く力へと変えていく「器」であり続けます。だからこそ、新しい仲間と共に伝統を受け継ぎながら、地域を導くリーダーを育てていくことが必要です。

拡大は単なる人数の増加ではなく、挑戦の精神を継承し、互いに刺激し合い、未来をともに描く仲間を育む営みです。新たに出会う仲間には、神戸青年会議所だからこそ得られる挑戦の機会や学び、そして仲間とともに汗を流す喜びを体験してもらいます。そのなかで生まれる信頼が、また次の人財を呼び込む力となります。

会員開発の手法においては、過去の軌跡に学びつつ、SNS等を活用した情報発信や、仮入会期間における研修・交流を図ります。これにより短期的な入会獲得にとどまらず、長期的な仲間づくりを目指します。さらに、仮入会者と委員会メンバー一同の信頼関係を深められるように、面談や役割分担を明確にしながらサポートを行います。また、メンバー自身が、会員開発活動を通じて人を想い、人を導く力を磨きながら、同時にリーダーとしての資質を高めていきます。新しい仲間を迎える活動は、組織に力をもたらずだけでなく、携わる一人ひとりの成長を促し、やがて地域を牽引する人財を育てることに繋がります。

11月例会については、新入会員とともに企画設営に取り組み、協働を通じて神戸青年会18 議所の一員としての学びと成長を実感できる場とします。

会員開発室は、新しい仲間を迎えることで組織の力を高め、同時にメンバー一人ひとりの成長を促します。そして志高き同志とともに夢を描き、その夢をまちの未来へと繋げ、学びと挑戦を重ねながら、共創都市・神戸を築き上げる原動力となることを目指してまいります。

大会構築室 室方針

室 名：大会構築室

室長(担当常任理事)：谷岡 幸平

神戸のまちは、多くの人々との繋がりと支えのなか、様々な困難を乗り越え、今まさに1 復興から未来へと進もうとしています。全国大会は、これまで受け継がれてきた全国の仲間との絆をさらに強め、地域社会に大きなインパクトをもたらす場です。その力をいかし、人が集い活気に満ちたまちの発展に繋げるために、神戸青年会議所は、全国大会神戸大会をつくり上げる仲間とともに、まちの未来を想い、地域を牽引する人財を育む大会の実現が必要です。

全国大会特別委員会では、積み上げてきた繋がりを大切に、カウンターパートとの対話を繰り返しながら、自ら先頭に立って、着実に歩みを進めます。8月例会では、これまでの大会構築を振り返り、一人ひとりがこの大会に関わる当事者であり、全国のメンバーとともに作り上げてきた意識を高めます。大きな挑戦を成し遂げるには、協力し合う力が必要であることを学び、大会に向けた最初の1歩を踏み出せる決起集会を構築します。そして、全国各地のまちの課題を解決へ導く、新たな人・地域との繋がりが生まれる全国大会を創造します。

記念事業特別委員会では、この大会をきっかけとして、神戸の未来を切り拓くことを見据えた事業構築を行います。産官学民と連携し、神戸を舞台とした参加する一人ひとりの心に刻まれ、誇りと高揚感を抱ける空間を演出します。また、多様な価値観を受け入れ、洗練を重ねてきた神戸の魅力を、KOBE AUTUMN FESTIVALの集大成として表現し、神戸を起点に生まれたこの熱を波及させ、周辺地域の活性化に繋がります。

大会構築室は、大会理念を基盤に一貫した企画・運営を進め、大会主管の経験を次代に継承し、LOMの発展へと繋げていきます。そして、全国から集う仲間が安心して参加できるよう、安全管理と運営体制を徹底し、参加した全ての人々が自信とプライドを持って未来へ語り継いでいける、次代の全国大会運営のモデルとなる大会構築を実現します。

共創室 室方針

室 名：共創室
室長(担当常任理事)：高橋 千秋

神戸のまちは、開港以来、港から様々な人と文化を取り入れて発展してきました。異国の優れた文化を受け入れつつも、ただ真似をするのではなく、神戸のまちに合うように柔軟に変化させることで独自の魅力を築き上げ、発信してきました。今、神戸が直面する様々な課題に取り組む際にもこの受容と調和の精神に倣わなければなりません。まちの課題や特性を的確に見極めたうえで、全国各地で培われてきた英知を積極的に取り入れて活用し、神戸に適した解決方法を描いていく必要があります。

持続可能な運動共創特別委員会は、神戸のまちが目指す未来像を描き出し、その実現に向けて類似の課題に取り組む既存の運動を活用することでより高い位置からスタートできる仕組みづくりを目指します。各LOMや地域で成果を出した事業の調査研究を行い丁寧に紐解きます。その知見をいかして神戸の課題を深く掘り下げ、神戸のあるべき姿を見定めます。まちに必要とされる持続可能かつ自走可能な運動構築を目指し、再発掘した運動を神戸のまちにより最適化させる方法を探求します。こうして整えた道筋を、課題解決に取り組む人々と積極的に共有し、互いに巻き込み合って強固な協力関係を築きます。そして、調査・最適化した運動から一部を選定し、関係する人々と協力しながら、実際に神戸の課題解決を目的とする事業を実施し、実証実験を行います。そこで得た知見を活用することで、他の運動の質も向上させます。これらの運動を通じ、人々が一致団結し、各自の力を何倍にも発揮できる「共創都市神戸」の未来像を描きます。

共創室は全国に目を向け、未来へ繋がるより良い運動を追い求めます。神戸の未来にふさわしい姿を見極め、その実現に向けて一步ずつ成果を積み重ねます。これまで各自で課題解決に取り組んできた人々を繋ぎ合わせて連携することでより大きな力を生み出していきます。そのために神戸内外を繋ぎ、人と人を結ぶ架け橋になることを目指します。

地域連携室 室方針

室 名：地域連携室
室長(担当常任理事)：大瀬良 健一

神戸青年会議所は、様々なパートナーとともに夏の風物詩となる「Kobe Love Port・みなとまつり」の開催を通して、神戸の発展を支えてきた港・海への感謝と、市民が世代や立場を越えて交流する場をつくり上げてきました。多様性に恵まれている現代において、まつりという機会は、人々の繋がりや一体感を生み出し、地域での交流を育むうえで欠かせません。神戸に住み暮らす人々が誇りを持って携われるまつりを継続するためには、地域を支えるあらゆる立場の人々が同じ目線で関わり、地域の力を結集してともにつくるまつりへと進化させる必要があります。

地域連携委員会は、誰もが参画できる地域のまつりをともにつくることを目指し、地元企業や地域団体、行政、在神大学が同じ目線で関わる、新たな運営体制を築きます。これまで地域でまつりを運営してきたパートナーも新たな体制に加え、その経験やノウハウを共有し合うことで、より厚みのある協働の基盤を構築します。また、開催地周辺の企業や団体とも密接に協働し、観光誘客に取り組むとともに、新たなツールの開発や、準備や企画の過程そのものを魅力として発信する方法についても検討します。こうした取り組みにより、来場者により豊かな体験を届け、まつりへの愛着を育みます。さらに、地域全体でまつりをつくる機運を高め、新しい挑戦を取り入れた運営体制を構築することで、創始の想いを守りながら、地域が協働して取り組める仕組みを次年度以降へと継承していきます。

地域連携室は、過去の歩みを受け継ぎながらも、時代に即した取り組みを進めるために、一つひとつの出来事に主体的に向き合います。狭い視野で物事を判断するのではなく、様々な人の価値観を取り入れ、人との繋がりから生まれる気づきを大切にしながら、新たな取り組みにも挑戦し続けます。その挑戦を礎として、地域が一体となって新たな未来を創造できる架け橋となることを目指します。

交流室 室方針

室 名：交流室
室長(担当常任理事)：足立 教至

神戸青年会議所は、先輩諸兄姉が築き上げてきた国内外の様々な人と交流を通じて、友情と信頼関係を今日まで脈々と受け継いできました。この長きに渡り受け継いできた想いを次の世代に繋げるためには、メンバー一人ひとりが交流の意義を理解し、ともに学び続け、成長していくことが不可欠です。

私たちは、交流を通じて多様な考えや価値観を共有し学ぶことで、互いのまちの発展に寄与してきました。継続してまちの発展に寄与していくためにも、メンバー一人ひとりが交流を通じて、新たな学びを得て、成長し続けていくことが必要です。

国際交流委員会は、各海外友好・姉妹LOMのメンバーとの間で、互いの文化や価値観を理解し、尊重し合える機会を創出します。ASPACや世界会議では異なる文化に触れ、神戸の文化を発信する機会でもあります。この機会を多くのメンバーに提供し、新たな発見と学びを得ていただくとともに、神戸の魅力も伝えます。9月例会では、国際都市としての価値を学び、グローバルな視点を養うことで、メンバーに新たな価値観を学ぶ機会を創出します。

国内交流委員会は、先輩諸兄姉が築き上げてきた関係性をさらに発展させるためにも、多くのメンバーを動員する必要があります。国内友好LOMとの交流事業では、世代や役職を越えて交流し、ともに心に残る交流事業を行います。互いに刺激し合って得た、新たな視点や学びをいかし、まちの発展に寄与できる新たな事業構築の一助とします。

交流室では対話というキーワードを基に、交流を通じ、ともに学び、自身の考えを共有することが神戸青年会議所メンバー一人ひとりの価値観を育てると考えます。そのために地域や環境の違いから生じるそれぞれの異なる視点や発想の違いを学び、お互いに新たな価値観を育て合える環境を創出します。メンバー全員が主体的に参画し楽しめる交流の場を提供し、交流を通じ、様々な人との対話から新たな学びや気づきを得ることで、メンバーの成長を促進します。

組織ブランディング室 室方針

室 名：組織ブランディング室

室長(担当常任理事)：佐長 すみれ

神戸青年会議所は、神戸のまちとともに歩み、まちの課題を解決することで、行政・在神企業・市民との信頼関係を築いてきました。しかし、市民との関係には未だ発展の余地があり、我々は一層の研鑽を持ってさらなる信頼獲得に努め、次世代の神戸を牽引する存在としての認知を確立する必要があります。次なる活動のためにも、日々の学びと活動を通じ社会との約束を果たし、市民やまちを巻き込んだ共創の輪を広げていかねばなりません。

例会委員会は、毎月の例会を通じて、メンバーに対してリーダーとしての学びと成長の機会を提供し、次代を担う人財としての資質を育んでいきます。礼儀礼節を重んじることで、一人ひとりがJAYCEEとしての誇りを自覚し、神戸青年会議所の一員たるにふさわしい振る舞いを身につけます。さらに、JCの枠組みを超えた広い視野でもって例会事業を構築することで、青年会議所が果たすべき役割を肌で感じ理解し、次の活動に繋がります。各回の例会が参加意義のあるものとなるよう、担当委員会を支援、例会運営を行っていきます。

広報委員会は、理念を同じくする諸団体と連携し、神戸青年会議所の事業の認知度を改善する効果的な広報スキームを築き上げます。結果だけを伝えるのではなく、事業に至るまでの過程を一つひとつ共有することで、我々の神戸のまちに対する深い想いを伝えることができます。この想いに共感する人・団体・企業と連携し、連携の過程や結果をさらに発信することで、事業活動と広報活動の好循環が生まれ、より大きな活動への架け橋となります。

組織ブランディング室では、日々のJC活動を着実に積み重ねていくこと、活動の過程を丁寧に発信共有していくことが、組織の価値を高めるブランディングであると心得、活動をしていきます。単に見栄えを整えるのではなく、例会を通じて己の内面を磨き上げ、広報を通じて我々の理念や情熱を真摯に伝えることで、活動の真価を広く示し、揺るぎない信頼を築いていきます。

総務室 室方針

室 名：総務室
室長(担当常任理事)：和田 昂樹

神戸青年会議所は今日まで、神戸のまちの発展のために諸会議を通じて議論を重ね、事業などの重要事項を決定してきました。まちの発展に資する運動をより良いものとするためには諸会議がより活発な議論の場となる環境づくりと、メンバーが運動の本質を捉えた自覚ある行動が求められます。さらに持続的な活動を行うためには、社会からの信頼を得ることが不可欠であり、規律ある組織運営の徹底と共通の志で歩みを揃えることが必要です。

総務委員会は、組織の中核として各種諸会議の運営を通じ、組織運営を円滑に進める役割を担います。あわせて思いやりの気持ちを持って運営にあたり、時代の変化に即した施策を推進するとともに、メンバー全員が会議に参画し活動の意義を理解できる環境づくりに取り組みます。これによりメンバーが責任を持って自ら考えより良い活動に専念できる体制を整えます。この活動を通じて組織全体の基盤を支え、メンバーの挑戦と成長を後押しします。

財務規則委員会は、各事業の財務面・コンプライアンス面を審査し、組織全体の透明性と信頼性を確保します。単なる管理にとどまらず重要なルールや基準を示すことで組織の基盤を強化し、メンバーが責任を自覚し確信を持って行動できる環境をつくります。さらに全メンバーが会議に参画し理解を深めることで、財務情報や資源運用に対する組織全体の意識を高め、最適な活用へと繋がります。これらの運営を通じて挑戦を支える強固な基盤を築きます。

総務室は、過去の慣習に捉われず常に改善と工夫を重ね、組織内外の連携を通じて円滑な組織運営を支えながら健全で信頼される風土を育みます。さらに変化の激しい時代を的確に捉えスピード感と正確さ、ホスピタリティ精神を持って誠実に対応します。こうして組織の持続的な発展に寄与し、志を同じくする仲間と友情を育み、互いの成長を加速させる機会を創出します。そしてさらに結束力を強め、常に進化し続ける組織を目指します。

専務室 室方針

室 名：専務室
室長(担当常任理事)：酒井 将利

神戸青年会議所が今もなお先人の想いを引き継いで活動を続けられているのは、幾多の1 困難を乗り越えてこられた先輩諸兄弟のご尽力と、仲間同士が互いに支え合う文化があったからにほかなりません。その歴史と精神に深く感謝するとともに、今後もより良い社会の実現に向けた力強い運動を展開するには、仲間同士が互いに協力できる体制が重要です。そのため、円滑な運動展開ができるようサポート体制の強化、支援を図ることで、持続的かつ強固な組織として整えていく必要があります。

渉外委員会は、執行部の職務に帯同することの責任の重さを真摯に受け止め、執行部の方々が職務に集中できるよう関係各所との信頼関係を丁寧に構築していきます。そのため、単なる渉外業務にとどまらず、規律ある行動と高い計画性を持って支援業務を遂行します。そして、組織の持続的な成長を実現するために、常に「より良い仕組みづくり」を問い続ける姿勢を大切にします。業務の一つひとつに責任を持ち、創意工夫を重ねることで、未来を担う組織基盤を築きます。神戸を代表して出向するメンバーに対して、出向者支援会を始めそれぞれの立場や役割に応じて力を発揮できる支援を行い、安心して活動に取り組める環境を整えます。そして、出向先で得た貴重な知見や経験を自分の成長だけにとどめるのではなく、LOM全体に共有・還元し、より強固で活力ある組織基盤の構築に活用できるよう取り組みます。

専務室は、対内外を問わず様々な団体との窓口を担う責任を自覚し、関係諸団体との確かな信頼関係を築いていきます。そのためには、規律ある行動と計画性を持って執行部の運営体制を整え、組織全体が円滑かつ力強く機能する基盤を構築します。また組織を支えることの大切さを胸に、見えない部分にこそ誠実を尽くす姿勢を大切に、仲間たちが挑戦に専念できるよう後押しする存在として、確かな使命感と責任感を持って日々の務めを果たしてまいります。

一般社団法人 神戸青年会議所 会員開発室	
会員開発特別委員会	
担当副理事長:青木 弘樹	
担当常任理事:上原 天馬	
委員長:石塚 慎之助	
副委員長:織部 成美	
副委員長:阪口 亮	
副委員長:田邊 義基	
副委員長:吉川 達郎	
運営幹事:川元 亜耶	
会計幹事:石原 幸忠	
次世代が誇れる神戸の姿	新たな仲間が集い共に学び成長することで、地域を導くリーダーが次々と生まれ、信頼の連鎖が広がります。さらに多様な個性と価値観を尊重し合い、挑戦の精神を絶えず継承し続けることにより、神戸青年会議所に活力が生まれます。そしてその活力が神戸のまちに影響を与え、誰もが誇りを持って安心して暮らせる神戸の姿となります。
設置背景	神戸青年会議所は、幾度の困難を乗り越えてきた歴史を受け継ぎ、未来を担うリーダーを輩出し地域の発展に寄与してきました。今後も挑戦の精神を継承し、運動を持続しまちをより良く発展させるには拡大活動に加え、共に学び、共に成長し、共に創る機会を提供し、まちを牽引するリーダーを育成する必要があります。
設置目的	■会員拡大と人財育成を一体的に機能させ、神戸青年会議所の挑戦を継承する人財基盤をつくることを目的とします。拡大により仲間を増やし、育成との両面の活動により、新たな仲間の獲得だけでなく、その挑戦を支え合う仕組みを構築します。会員拡大だけでなく、成長する仲間を迎え入れ、次代へと繋がるJAYCEEを育てます。
KGI	1-1 本入会者85名を達成します。
	2-1 仮入会開発セミナー3回実施後のアンケートで「自己の成長を感じることができた」の回答80%を目指します。
	3-1 11月例会後の新入会員向けアンケートで、「次年度以降の青年会議所の事業に積極的に参加し、自己の成長に繋げる体験をしたいと思う」を80%以上にします。
KPI	1-1 仮入会者120名を達成します。
	2-1 仮入会開発セミナー3回の平均参加率を80%を目指します。
	3-1 11月例会に新入会委員が参画する機会を1つ盛り込みます。
政策手法	1-1 仮入会者120名を達成するために320名の紹介候補者を目指します。
	1-2 紹介候補者320名を達成するために、各委員会に新入会から1名の拡大幹事を選任いただき、12月から毎週進捗状況の確認と候補者検出の依頼をし、12委員会を2グループに分け、各委員長とそれぞれ隔週でWEBミーティングを実施し、情報共有、交換、進捗確認を行います。
	1-3 仮入会後の本入会率を高めるために、入会確度が低い仮入会者を対象に個人面談を2回実施し、入会への懸念点の払拭と個々にあわせた自己成長の機会の場であるという説明の場とします。
	2-1 3回の開発セミナーを実施することで、神戸青年会議所へ入会する魅力を感じてもらおうと同時に個人の成長(開発)の機会の場とします。 2-2 青春の居酒屋でチーム分けした担当副委員長及び紹介者が主体的に、開発セミナーへの参加を仮入会者に促します。
パートナー	神戸青年会議所に所属の全メンバー
	神戸青年会議所OB
	在神企業・個人事業主
	企業支援を行っている外部団体
委員会運営	合同会社MARUDE
	メリハリをつけて厳しくも真摯に課題と向き合いながら、時には笑い合い、苦楽を共にする過程で信頼と絆を深めます。そして互いの挑戦を称え合い、仲間の成長を自分事として喜べる雰囲気大切にします。また拡大活動において、手順が見える化された流れを構築し、誰でも実践できるという手応えと楽しさを実感してもらいます。さらに委員会メンバーには、どんな課題にも笑顔で積極的に挑み、挑戦を負担ではなく機会として捉える前向きな姿勢を求めます。一年を通して、一人ひとりが主役として輝き、かけがえのない仲間となる委員会運営を目指します。

年間事業フレーム

会員開発特別委員会
委員長 石塚 慎之助

全 国 大 会	世 界 会 議	京 都 会 議 (京 都)	A S P A C	サ マ コ ン	全 国 大 会	世 界 会 議
------------------	------------------	------------------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
11月例会の企画、設営及び実施に関する業務										議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備	実施	引継ぎ	
JCTトライアル	JCTトライアル											本入会				
会員を増やすことを目的としたすべての業務	企画立案	仮入会面談の実施				仮入会期		青春の居酒屋					本入会		引継ぎ	
									仮入会面談 (委員会)		仮入会面談 (委員会)	本入会面談 (正副)				
		拡大幹事選任	拡大幹事ミーティング 毎週の定例WEB会議の実施													
入会希望者募集ツールの作成に関する業務	議案 (協議)	議案 (審議)										議案 (決算)	引継ぎ			
	企画立案	発注	配布										引継ぎ			
会員拡大推進会議の企画、設営及び実施に関する業務	議案 (協議)	議案 (審議)								議案 (決算)	引継ぎ					
	企画立案	実施	拡大幹事 決起会議	拡大幹事 進捗フォロー											引継ぎ	
入会インフォメーションの企画、設営及び実施に関する業務			議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)											引継ぎ
	企画立案	企画・修正			準備		実施								引継ぎ	
未来のリーダー育成に関する業務				仮入会 会員開発セミナー企画・立案・ 準備			仮入会 会員開発 セミナー	仮入会 会員開発 セミナー		仮入会 会員開発セ ミナー		検証	引継ぎ			
本入会後の新入会員に対するフォローアップに関する業務												全国大会 準備支援	全国大会 参加			
日本JCTOYP委員会に関する業務					エントリー募集支援								全国大会 参加	引継ぎ		

一般社団法人 神戸青年会議所 大会構築室	
全国大会特別委員会	
担当副理事長:新井 智裕	
担当常任理事:谷岡 幸平	
委員長:尾倉 隆景	
副委員長:阿原 速人	
副委員長:金澤 秀磨	
副委員長:小西 見歩	
副委員長:作治 大輝	
運営幹事:山岡 里圭	
会計幹事:北岡 健太郎	
次世代が誇れる神戸の姿	全国大会を通じて、神戸青年会議所のメンバーが地域を超えて協力することで、全国各地に強い繋がりを持ったリーダーへと成長します。メンバーが力を合わせることによって一人ひとりの力では達成できない課題も乗り越えられるようになり、地域全体を巻き込んで潜在的な活力を呼び起こして、神戸が持続可能なまちとして発展する姿。 (153字)
設置背景	1978年の全国大会から48年ぶりに全国大会が神戸の地で開催されます。全国大会を、まちの更なる発展に繋げるには全国大会に関わる全てのメンバーが一丸となって大会に臨み、成功させなければなりません。そのためには、メンバーが相互に熱い想いを交わし、繋がりをより強固にしていける環境を整える必要があります。 (151字)
設置目的	<ul style="list-style-type: none"> ■全国大会を主管することへの理解を深め、全国大会に関わるメンバー一人ひとりが、高い意識・モチベーションで構築に関わる土壌を作ることを目的とします。 ・メンバーが高い意識で大会構築に関わり、意見や想いをくみかわすことで、大会後にも残る強い繋がりを得ることができま す。 ・全国大会の意義や5益を新入会員など主管立候補から当該年度に至るまでの経緯を知らないメンバーも含め、全体に浸透させます。 ・全国大会実行委員会の会議運営を円滑にし、会議の内容に注力できるようにすることで、発展的で意義のある議論の活性化に資します。 ・日本青年会議所全国大会運営会議との連携を密に行うことで主催者である日本青年会議所と主管である神戸青年会議所の協力体制を強固にします。
KGI	1-1 決起集会(8月例会)の対内事後アンケートにて「全国大会神戸大会へ主体的に参画する意識が高まった」との回答90%以上を達成します。メンバーの当事者意識を高揚させます。
	1-2 決起集会(8月例会)の対外事後アンケートにて大会副主管となる協議会、LOMによる「全国大会神戸大会の当事者意識が高まった」との回答80%以上を達成します。副主管の協力を強固にし、より良い大会を構築します。
	2-1 日本青年会議所全国大会運営会議や全国大会実行委員会との連携での意思伝達の齟齬に即対応し、再発を0にします。主催者である全国大会運営会議との連絡、全国大会実行委員会内の円滑な調整を深めることで、機動的な運営が可能となり、大会が地域に与える影響力を増大させます。
	3-1 全国大会慰労会の事後アンケートで「全国大会神戸大会に参画して良かった」との回答80%を達成します。大会後の慰労会に参加して大会を振り返ることで、大会構築で生まれた絆を強固にします。
KPI	1-1 決起集会(8月例会)までの毎月の通常例会にて、全国大会特別委員会から大会へ向けた情報を発信します。
	1-2 大会ロゴをあしらったピンバッジを作成し、メンバーの着用率を100%とします。
	2-1 日本青年会議所全国大会運営会議の全体会議に各委員会メンバーが4回以上参加します。
	2-2 全国大会実行委員会の会議に各委員会メンバーが4回以上参加します。
政策手法	2-3 全国大会実行委員会の会議に兵庫県下21LOMのメンバーが3回以上参加します。
	3-1 全国大会慰労会の参加率80%を達成します。
	4-1 全国大会セミナーの新入会員の参加率80%を達成します。
	1-1 神戸青年会議所のメンバーが主体的に関わることができるような決起集会を実施することで、メンバーの意識を高めることができます。
1-2 大会ロゴをあしらったバッジを主管、副主管、及び全連メンバーで着用し、また、設えとして、神戸だけでなく、兵庫の魅力を発信できる内容とすることで、実行委員会としての一体感を演出します。	
1-3 毎月の通常例会にて、大会へ向けた情報を発信します。全国大会に向けた結団式ともいえる決起集会(8月例会)までの間に全国大会に関する情報発信を行うことで、決起集会に向けて大会への参画意識を高めます。	
2-1,2-2 全国大会運営会議や全国大会実行委員会の各種会議へメンバーが参加して連携を深めることで、強固な協力体制で大会を迎えることができます。特に全国大会運営会議との連携は密に行う必要があり、会議への参加を他委員会へもよびかけます。	
2-3 兵庫県下21LOMに対して、実行委員会への参加を呼びかけます。会員会議所会議にて、要望依頼をさせていただきます。	
3-1 全国大会の実施に向けて協力してきたメンバーで慰労会を実施し、対外対内とも感謝を伝えて、讃えあうことで、次年度以降も継続する関係を構築できます。	
3-2 大会後に、全国大会当日及び全国大会に至るまでの経緯をまとめて報告書を作成します。神戸の地で全国大会に向けてメンバーが行った運動の軌跡を残します。	
4-1 新入会員を主な対象に全国大会の意義を説明することで、LOMが一丸となって全国大会神戸大会へ取り組むこととなり、メンバーが高い意識で決起集会及び大会当日へ臨むことができるようになります。	
パートナー	日本青年会議所
	近畿地区協議会
	兵庫ブロック協議会
	各地青年会議所
	日本JCシニアクラブ
	神戸JCシニアクラブ
	神戸ポートピアホテル
	株式会社One Bright KOBE
	一般財団法人 神戸観光局
	兵庫県 神戸市
委員会運営	全国大会特別委員会では「心をひとつに、未来を動かす」をテーマに委員会運営を行います。古き良き青年会議所の誇りと先輩諸兄へのリスペクトを胸に、過去の知見を現代の課題に再整理して落とし込むことで新たな希望を見出します。また、例会や会議の厳粛な場と懇親会やエクスカーションの楽しい雰囲気とのメリハリをつけ、メンバー全員が、格好良いJAYCEEとして成長できるよう目指します。歴史と革新が交差する事業実施を通じ、全国の青年会議所メンバーとの繋がりを持ち合わせることで、委員会メンバーの生涯にわたる絆と明日への希望を紡いでいきます。

年間事業フレーム

全国大会特別委員会

委員長 尾倉 隆景

運動・事業名	全 国 大 会		世 界 会 議		京 都 会 議 (<small>京 都</small>)		A S P A C E		サ マ コ ン		全 国 大 会		世 界 会 議			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
決起集会(8月例会)の企画、設営及び実施に関する業務					調査・構築			議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	例会準備	例会設 営・実施	検証	議案 (決算)	引継ぎ	
日本JC全国大会運営会議との連携に関する業務					調査	第0回全 体会議	第1回全 体会議	第2回全 体会議	第3回全 体会議	第4回全 体会議	第5回全 体会議	第6回全 体会議	第7回全 体会議	第8回全 体会議	第9回全 体会議	全国大会 実施
壮行会の企画、設営及び実施に関する業務			調査・構築		議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	事業準備	壮行会実 施	検証	議案 (決算)	引継ぎ				
全国大会神戸大会慰労会の企画、設営及び実施に関する業務									調査・構築		議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	事業準備	事業実施	検証
全国大会信州諏訪圏大会への引継ぎに関する業務											調整連絡	引継ぎ会 実施	引継ぎ			
全国大会神戸大会の準備進捗を会員へ周知することを目的とした業務													議案 (協議)	議案 (審議)	事業準備 ピンバッジ 配布	事業準備
全国大会実行委員会における会議に関する業務	報告	報告	報告	報告	報告	報告	報告	報告	報告	報告			報告	報告	報告	報告
全国大会実行委員会における会議に関する業務	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議 (ブロック 理事長参 加)	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議 (ブロック 理事長参 加)	全国大会 実行委員 会会議	全国大会 実行委員 会会議 (ブロック 理事長参 加)	全国大会 実施	引継ぎ	
全国大会に関するすべての業務	関係各所との打合せ											全国大会 実施		お礼回り		引継ぎ
														議案 (協議)	議案 (審議)	報告 書作成

一般社団法人 神戸青年会議所 大会構築室	
記念事業特別委員会	
担当副理事長:新井 智裕	
担当常任理事:谷岡 幸平	
委員長:枝松 計尚	
副委員長:岩永 知紗	
副委員長:小川 琢也	
副委員長:橋本 健辰	
副委員長:中西 俊輔	
運営幹事:田和 良介	
会計幹事:森 輝三章	
次世代が誇れる神戸の姿	全国大会における記念事業を通して、他団体と様々な企画を共催して神戸全域を巻き込んだ大きな事業を創り出し、未来の神戸の可能性を大会に携わるすべての人に発信する。その結果、外部から人が訪れて神戸のまちに新たな経済の循環が生まれ、地域の産業が活性化されていき、共創の好循環が続いていく姿。
設置背景	ウォーターフロントをはじめ、三宮の再整備が進みまちとしての魅力が次々と生まれる一方で、人の流れは依然として限定的であり、まちの開発と運動出来ていないという現状があります。全国大会という機会を活用して神戸のまちの未来の可能性を発信し、点で存在する魅力を面として繋ぎ回遊性を高める必要があります。
設置目的	■神戸の魅力を発信し、地域の発展と経済の活性化を目的とします。 ・神戸の未来を感じることができる記念事業を通じ、神戸のまちに対する関心と期待が高まり、神戸を訪れる人々が増加することで、地域全体に新たなにぎわいと活力が継続的に生まれることを目的とします。
KGI	1-1 3以上の団体と連携した企画を提供します。
	1-2 県や市と連携した企画を提供します。
	2-1 3以上のイベント会場を用意します。
	3-1 来場者アンケートでの、「神戸の魅力を感じることができた。」「神戸の未来を感じることができた。」の回答率90%を目指します。
KPI	4-1 開催日当日のウォーターフロント方面への人流を通常の10倍にします。
	1-1 同時期に三宮周辺でイベントを企画している20団体以上に協力依頼をします。
	1-2 県や市と連携して神戸の魅力を発信する会場を1つ以上設置します。
	2-1 会場に繋ぐ道路を1か所以上歩行者天国にします。
	3-1 周遊性の高いイベントを1件以上企画します。
政策手法	4-1 マスメディア3社以上と連携を取った広報を行います。
	4-2 次世代モビリティを含む3社以上の交通機関と連携します。
	1-1 規模感の強化や来場者数の増員等といった同時開催によるメリット等を提示し、神戸全域が一体となって事業を共催する様に提案します。
	1-2 産官学民と連携して、兵庫県の魅力と神戸市の魅力を体験型地域プログラムとして提供する場をつくります。
	2-1 会場を繋ぐ道路を歩行者天国にし、会場間の回遊性を高めることで記念事業全体の一体感を高め、来場者が各会場を回遊しやすくします。
パートナー	3-1 えきまち空間からジーライオンアリーナまでの動線において、オータムフェスティバルをはじめとする様々な事業を実施することにより、三宮から全国大会会場までを面で繋ぎ、まち全体を巻き込んだイベントとして人の流れを作ります。
	4-1 マスメディア各社、または公共交通機関等の企業と連携をとった広報を行い、市外からの集客を促進します。また位置情報によるデータ集計等の方法により人流を計測し、ウォーターフロント方面の各会場ごとのコンテンツとそれに対する広報活動の有効性を調査し、今後のまち作りに活かせるようにします。
	4-2 次世代モビリティ等の導入や公共交通機関との連携により、移動の利便性を高め、えきまち空間とウォーターフロントエリアとの回遊性を向上させます。
委員会運営	兵庫県(兵庫県県民センター県民交流室、兵庫県東京事務所)
	神戸市(観光局、都心三宮再整備課、ファッション産業課、神戸ファッション美術館、兵庫県立美術館、フェリシモチョコレートミュージアム)
	地域団体(三宮センター街、さんちか、生田神社、南京町商店街、旧居留地連絡協議会、三宮中央まちづくり協議会、等)
	マスメディア(神戸ジャーナル、サンテレビ、MBS毎日放送、読売テレビ、ABC毎日放送、関西テレビ、テレビ大阪、関西ウォーカー、神戸新聞社、KissFM KOBE、ラジオ関西、等)
	在神企業(GLIONグループ、フェリシモ、アトア、神戸阪急、大丸神戸店、JR西日本、阪神阪急ホールディングス株式会社、関西エアポート神戸株式会社等)
	在神教育機関(甲南大学、神戸学院大学、神戸電子専門学校、神戸芸術工科大学、神戸甲陽音楽&ダンス専門学校、神戸国際調理製菓専門学校、等)
委員会運営	記念事業特別委員会では「感謝」の気持ちを大切に、何事にも積極的に取り組む委員会運営を行います。先輩たちが築き上げてきた神戸青年会議所の長い歴史のなかで、全国大会という記念すべき大舞台で記念事業という栄えある事業を担当させていただけることへの感謝と、事業の構築・運営に際して関係を持つ対内・対外の方々に対する感謝の意識を持ちます。感謝の気持ちは敬意に繋がります。尊重し合える関係性を構築することができます。そして、積極的に取り組むことでメンバーの成長とお互いの信頼関係の構築に寄与し、生涯の記憶に残る委員会となります。

年間事業フレーム

記念事業特別委員会

委員長 枝松 計尚

全
国
大
会

世
界
会
議

京
都
会
議
(
京
都
)

A
S
P
A
C

サ
マ
コ
ン

全
国
大
会

世
界
会
議

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
記念事業に関する企画、設営、実施に関する業務	企画立案	開催趣意書作成	議案(審議)	企画立案			議案(討議)	議案(協議)	議案(審議)	準備			記念事業実施	企画立案	議案(決算)	引継	
記念事業報告書作成に関する業務				報告書資料の収集										企画立案	議案(審議)	議案(決算)	
記念事業の広報広報戦略、協賛に関する業務				議案(討議)	議案(協議)	議案(審議)	広報活動	オフィシャルHP運用			メディア・街頭PR			企画立案	議案(決算)	引継	
				広報手法打ち合わせ				配信準備	プレリリース	SNS運用							
				議案(討議)	議案(協議)	議案(審議)	協賛企業募集			協賛入金確認							企画立案
記念事業の支援企業、関係機関及び団体の募集、連絡、調整に関する業務				アーティスト協力企業調整						コンテンツ制作	企画検証	企画立案準備		企画立案	議案(決算)御礼	引継	
				ボランティア提携先検討			ボランティア募集期間			ボランティア募集締切	ボランティア選考						
	企画立案			協力学生募集	学生の企画立案	企画検証	企画立案準備										
記念事業実行委員会の運営に関する業務	関係各所との打ち合わせ								準備案内発送	第1回実行委員会	適宜打合せ	準備案内発送	第2回実行委員会	引継			

一般社団法人 神戸青年会議所 共創室	
持続可能な運動共創特別委員会	
担当副理事長:武部 俊	
担当常任理事:高橋 千秋	
委員長:森 陽真	
副委員長:茂山 香菜恵	
副委員長:藤田 良平	
副委員長:康本 翔大	
副委員長:山田 裕樹	
運営幹事:柿木 康宏	
会計幹事:長谷川 智弘	
次世代が誇れる神戸の姿	神戸青年会議所が、全国のまちの運動の調査で得た知見をいかし、神戸のまちの課題に取り組む各パートナーとの相互協力関係の先頭として、神戸のまちの課題に対して特化した持続可能な運動を展開していきます。これにより、まちの課題に対して民間から自発的かつ持続的な運動が展開される土壌が醸成され、発展を遂げていく姿。
設置背景	日本の青年会議所には、各地で行われてきた社会課題解決事業により得られた英知が蓄積されています。継続的な取り組みが必要な神戸の課題の解決のためには、その英知を活かして、多種多様な民間企業や関連団体が連携しながら主体的に動き、持続的に自走できる仕組みを構築することが求められます。
設置目的	<p>■2月例会を通じて、全国大会を主管する価値と責任を自覚し主体的に牽引していくメンバーを増やすことを目的とします。全国大会主管LOMとしてメンバーを奮い立たせるとともに、全国大会に向けて組織内外のパートナーとの相互協力関係を構築するためのリーダーシップの視点や考え方について理解を深める機会とします。</p> <p>■10月例会を通じて、神戸のまちの課題解決のために年度を越え継続的に行動するメンバーを増やすことを目的とします。神戸青年会議所メンバーが、神戸のまちの現状の課題と今後の展望について理解するとともに、社会課題解決運動を当年度のみで終わらず、持続的に発展させていく必要と自覚を持つことができる機会とします。</p> <p>■共創事業を通じて、神戸のまちに定着を望む若者を増やすことを目的とします。神戸のまちの課題の一つである若者の転出問題に対して、在神企業と学生を結びつける事業とします。</p> <p>■全国の英知の調査と各種団体との連携を通じて、組織内外に課題解決運動を起こす人財を増やすことを目的とします。全国の成功事例の調査研究及びパートナーとの連携により、課題解決運動に取り組む間口を広げ、様々な人財が参画可能な土壌を整えます。</p>
KGI	<p>1-1 2月例会事後アンケートにおいて、「全国大会を主管する価値と責任を自覚できた」との回答90%以上を達成します。</p> <p>1-2 2月例会事後アンケートにおいて、「リーダーシップを発揮するための視点と考え方を学ぶことができた」との回答80%以上を達成します。</p> <p>2-1 10月例会の事後アンケートにおいて、「神戸のまちの課題解決に向けた運動を未来の神戸のまちへ引き継いでいきたい」との回答80%以上を達成します。</p> <p>3-1 共創事業の参加者向け事後アンケートにおいて、「在神企業とのつながりができた」との回答90%以上を達成します。</p> <p>4-1 神戸青年会議所メンバー向けアンケートにおいて、「神戸のまちの課題に向き合い考えるきっかけになった」との回答90%以上を達成します。</p> <p>4-2 共創事業でのパートナー向けアンケートにおいて、「神戸青年会議所と連携して神戸の課題解決に向けた事業を実施したことに満足できた」との回答90%以上を達成します。</p>
KPI	<p>1-1 全国大会主管LOMとしての自覚を促す機会を2回以上提供します。</p> <p>1-2 事前アンケートで外口直前会頭への優れた質問を15個以上選出します。</p> <p>2-1 神戸青年会議所による課題解決運動を行政へ2つ提案します。</p> <p>3-1 在神企業を50社以上リストアップ行います。</p> <p>4-1 モデルケースを3つ以上提供します。</p> <p>4-2 共創事業の前後でパートナーとの会議体を2回以上設け、共創事業の構築と検証を行います。</p>
政策手法	<p>1. 2月例会の企画、設営及び実施に関する業務 外口真直前会頭を招く講師例会とし、今年度全国大会を主管することの価値をメンバーに講話いただきます。また、メンバーを代表して各委員長に外口真直前会頭と対談する機会を設けます。メンバー全員が全国大会主管LOMとしての責任を自覚し、全国大会に一九丸となって取り組むための重要なきっかけとします。</p> <p>2. 10月例会の企画、設営及び実施に関する業務 兵庫県知事を招く講師例会とし、兵庫県知事に講話いただきます。また、神戸青年会議所による課題解決運動を行政に対して提案します。神戸の課題解決運動を将来へ向かって持続的に発展させていく必要と自覚をメンバーに認識してもらいます。</p> <p>3. 持続可能な運動の共創を目的とした事業の企画、設営及び実施に関する業務 神戸のまちの課題の一つである若者の流出問題に対して、特に転出数の多い20歳～25歳の学生を対象に、学生が在神企業に就職する環境を作るための事業を実施します。事業の実施後はパートナーと検証を重ね自走可能な事業として承継します。</p> <p>4. 全国の英知の調査と各種団体との連携に関する業務 4-1 神戸の課題及び全国の優れた事業を調査・研究したモデルケースをメンバーに共有します。また、「gian pocket」や神戸青年会議所の過去議案データベースを整理したうえで活用する方法を紹介します。</p> <p>4-2 神戸の課題解決運動のパートナーとなり得る各種団体に対して共創事業の協同を提案します。共創事業の前後で、パートナーとの会議体を設け、共創事業の構築と検証を行います。</p>
パートナー	<p>公益社団法人日本青年会議所</p> <p>兵庫県知事、兵庫県議会議員</p> <p>神戸市企画調整局政策課</p> <p>全国各地青年会議所</p> <p>在神企業</p> <p>マスメディア(神戸新聞社、神戸ジャーナル、サンテレビ、関西テレビ、Kiss FM KOBE、ラジオ関西)</p>
委員会運営	<p>持続可能な運動共創特別委員会では、「コミュニケーションの頻度」を大事にしています。メンバー同士が思いやりの気持ちを持って手を差し伸べ支え合います。普段から頻りにコミュニケーションを取ることで、本音をいえる真の信頼関係を築き、辛い時も助け合える環境を作ります。事業においては、委員会を引っ張っていくスタッフが一枚岩となって取り組む姿を見せていくことで、委員会メンバー全員で乗り越える、そのような成功体験を積み重ねて、メンバー同士を誇りに思えるような委員会運営を行っています。</p>

年間事業フレーム

持続可能な運動共創特別委員会
委員長 森 陽真

全
国
大
会

世
界
大
会

京
都
大
学
議
事
会
議
議
事
部
議
事
会

A
S
P
A
C

サ
マ
コ
ン

全
国
大
会

世
界
大
会

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2月例会の企画、設営及び実施に関する業務	企画・立案・調査	議案 (協議)	議案 (審議)	準備	実施	検証	議案 (決算)									
10月例会の企画、設営及び実施に関する業務								議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備	実施	検証	議案 (決算)		
持続可能な運動の共創を目的とした事業の企画、設営及び実施に関する業務	企画・立案・調査			議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備	実施	検証	議案 (決算)					引継	
持続可能な運動の共創を目的とした各種団体との連携に関する業務	企画・立案・調査						実施						引継			
成功事例の発掘とまちへの最適化	調査・研究													引継		

一般社団法人 神戸青年会議所 地域連携室	
地域連携委員会	
担当副理事長:鈴木 大介	
担当常任理事:大瀬良 健一	
委員長:谷村 界飛	
副委員長:高橋 慧	
副委員長:中村 翔	
運営幹事:勝田 一成	
会計幹事:中吉 俊貴	
次世代が誇れる神戸の姿	市民が主役となり、多様な世代や背景を持つ人々が力を合わせて共にまつりをつくり上げることで、世代を越えた交流と協働が育まれ、地域全体に誇りと一体感が広がります。それによって地域コミュニティが今以上に活性化し、神戸に住み暮らす人々が次世代に胸を張って誇れる未来を描き、共に歩みを進めている姿。
設置背景	先輩諸兄姉が創り上げたみなとまつりは、市民や企業、団体の参画を通じて、地域の交流の場として発展してきました。今後も市民が愛着と誇りを持って携われるまつりを継続していくためには、運営を神戸青年会議所だけに頼るのではなく、企業や行政、教育機関、地域団体など、多様な立場が協働して支える体制へと進化させていく必要があります。
設置目的	<p>■新たな形の実行委員会の運営方法を確立し、次年度以降の事業運営の基盤とすることを目的とします。実行委員会をもとに新たに運営を担当する運営委員会を設置し、市民の枠を加え、企業や学生など多様な主体が参画することでみなとまつりを地域に根差し、自律的に継続していくまつりへと進化させます。</p> <p>■7月例会では、これまでの運営を振り返って課題を整理するとともに、協働型まつり運営のモデルケースを学ぶことで、新たな運営体制の方向性をメンバー及びパートナーに浸透させることを目的とします。</p> <p>■地域連携事業を開催し、運営委員会と協働することで、新たな運営体制の有効性を検証し、よりよい形で次年度へ引き継ぐことを目的とします。</p> <p>運営委員会と共同して実施することで、持続可能なまつり運営に活かせるかを検証し成果や課題を整理したうえで次年度へ確実に引き継ぎます。</p>
KGI	<p>1-1 運営体制に地域団体・企業・行政・教育機関、福祉団体などの参画を実現します。</p> <p>2-1 7月例会を開催し、これまでのみなとまつりの課題やこれからの方向性についてメンバー及びパートナーと共有します。</p> <p>3-1 地域主体の運営体制のもと、市民参画の場となる地域連携事業を開催します。</p> <p>3-2 次年度以降も自律的に継続できる持続可能な地域運営体制を構築します。</p>
KPI	<p>1-1 地域との協働体制を強化するため、新たな団体を30件以上リストアップします。</p> <p>1-2 新たに、みなとまつりの運営を担う運営会議を5回以上開催します。</p> <p>2-1 みなとまつりの持続可能な運営体制の方向性について理解できたと回答した割合を80%以上を達成します。</p> <p>3-1 新たな運営体制で市民が参加、体験できるコンテンツを策定し、外部団体、企業と連携して実施します。</p> <p>3-2 地域連携事業実施の前・最中の2段階でアンケートを実施し、計200件以上の回答を獲得します。</p> <p>3-3 事業実施後、引継ぎ式を11月に開催し、次年度メンバーへ引継ぎます。</p>
政策手法	<p>1-1 新たな連携関係の創出 企業・市民団体・教育機関・福祉団体など30件以上をリストアップし、新規参画を働きかけます。特に地域課題の解決や次世代の育成に資する団体を巻き込み、企画や広報を通じて共にまつりを育てる仕組みを整えます。</p> <p>1-2 地域主体の自律的運営体制の確立 地域団体・行政・企業・市民が横断的に参画する運営委員会を立ち上げます。委員会は年間5回以上開催し、課題や方向性を共有する場とします。青年会議所はその調整役・支援役を担い、地域が自律的に運営できる基盤をつくります。また役割分担を明確化し、次年度への基盤強化に繋がります。</p> <p>2-1 まつりの在り方と協働の可能性の検証 7月例会では、これまでの運営を振り返り課題を整理するとともに、協働によるまつり運営のモデルケースを学びます。新たな運営体制の方向性と役割分担について共通認識を形成します。</p> <p>3-1 地域主体の継続的運営モデルの検証 地域の方々が主体的に参加できる体験型コンテンツを策定・実施し、来場者の満足度などを調査・分析します。これにより、地域とともにまつりを創り上げる仕組みの有効性を検証します。得られた成果と課題は、改善点を反映したうえで次年度以降の持続可能な地域主体の運営体制の基盤を確立します。</p> <p>3-2・3-3 成果の共有と地域全体への波及 イベント実施前・最中の2段階でアンケートを200件以上回収し、成果や課題を数値化・可視化します。事業報告書にまとめて地域へ還元し、参画する市民や団体が役割を再確認できるようにすることで、まつりを一部の主催者のものではなく「地域全体の共働の場」として拡大させます。また次年度への引継ぎ式を開催し、成果を引き継ぐことで、持続可能な運営体制を築きます。</p>
パートナー	<p>みなとまつり実行委員会(兵庫県、兵庫県民センター、神戸市、神戸市港湾局、公益社団法人神戸海事広報協会一般財団法人神戸観光局、株式会社神戸新聞社)</p> <p>神戸港"U"パークマネジメント共同事業体</p> <p>マスメディア(神戸ジャーナル、ラジオ関西、MBS、サンテレビ、兵庫エフエム放送株式会社)</p> <p>在神学生(大学生・高校生)、産官学民プラットフォーム</p> <p>社会福祉協議会・各福祉団体</p>
委員会運営	地域連携委員会は、メンバー一人ひとりが互いを尊重し合い、感謝と謙虚さを忘れず、自己の成長と喜びを分かち合える温かな場を目指します。参画意識を高め、自由に意見を表明し、想いを速やかに実行へと結びつける環境を整え、計画性を持って全員が主役として輝く機会を創出します。困難に直面しても力を合わせ、前向きに挑戦する姿勢を貫き、共に喜びと感動を分かち合う経験を通じて、かけがえのない仲間との強固な絆を築き、その歩みがメンバー一人ひとりの人生をより豊かにする大切な一助となることを目標とします。

年間事業フレーム

地域連携委員会
委員長 谷村 界飛

全
国
大
会

世
界
会
議

京
都
会
議
(
京
都
)

A
S
P
A
C

サ
マ
コ
ン

全
国
大
会

世
界
会
議

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
7月例会の企画、設営及び実施に関する業務	企画・立案					議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備 期間	例会実施	検証		決算	引継ぎ	
地域連携に関する企画、設営、実施に関する業務	企画・立案					議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備期間	事業実施				報告	引継ぎ
地域連携事業報告書作成に関する業務														データ 整理	引継ぎ
地域連携の広報、協賛に関する業務	広報(調査、研究期間)													検証	
	協賛(調査、研究期間)														
地域連携の支援企業、行政及び関係機関及び団体の募集、連絡、調整に関する業務	企画・立案			各種諸団体への打診、説明		各諸団体との打合せ		企画検証	企画準備					検証	報告御礼
産官学民との連携に関する業務	企画・立案		議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	運営委員会開催			企画準備					検証運 営委員 会実施	引継ぎ
みなとまつりの在り方に関する調査業務	調査・研究									検証	引継ぎ				

一般社団法人 神戸青年会議所 交流室

国際交流委員会

担当副理事長:久保田 誠

担当常任理事:足立 教至

委員長:藤野 竜太郎

副委員長:吉田 涼

副委員長:三木 達郎

運営幹事:前蘭 慎一

会計幹事:村上 立真

次世代が誇れる神戸の姿	国際都市神戸で活動する青年経済人として、海外への渡航や交流を通じ、国際的な知見と広い視野を養うことが重要です。異なる文化や価値観に触れ、海外への心理的ハードルを下げ、世界との繋がりをより身近に感じることができます。自らの固定観念を超え、柔軟な発想力や多様性を受け入れる姿勢を育むことで世界に誇る共創都市神戸となります。
設置背景	神戸青年会議所は、先輩諸兄姉が築いた海外姉妹・友好LOMとの絆を受け継ぎ、国際都市である神戸の魅力向上に寄与してきました。これまで以上に、神戸が異文化を取り入れながらさらに魅力的なまちに発展するには、メンバー自身が国際的な知見と視野が重要であると改めて認識する機会を創出する必要があります。
設置目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ASPAC(新潟) <ul style="list-style-type: none"> ・ASPAC内で開催されるファンクションや来日する海外JCメンバーとの交流を通じて、国際的な知見や視野を広げることを目的とします。 ■世界会議(フィリピン) <ul style="list-style-type: none"> ・世界会議内で開催されるファンクションや現地の文化を知り、海外JCメンバーとの交流を通じて、国際的な知見や視野を広げることを目的とします。 ■9月例会 <ul style="list-style-type: none"> ・国際都市神戸における、国際諸会議(ASPAC等)の開催意義とその誘致を検討することを目的とします。
KGI	<p>1-1 ASPAC(新潟)の参加者を100名達成します。</p> <p>2-1 世界会議(フィリピン)の参加者を30名達成します。</p> <p>3-1 9月例会の事後アンケートにおいて「神戸の国際交流としての方向性を学べた」と回答する割合90%以上を達成します。</p>
KPI	<p>1-1 ASPACへの参加促進のため、現地調査を行い、参加促進動画を1回配信します。</p> <p>2-1 世界会議への参加促進のため、現地調査を行い、参加促進動画を1回配信します。</p> <p>3-1 9月例会までに国際交流することのメリットを2回情報提供します。</p>
政策手法	<p>1-1 ASPAC(新潟) 現地調査を行い、委員会訪問時に現地の魅力を伝える情報発信(参加促進動画)を実施し、各委員会を1回以上訪問し、参加促進に繋がります。</p> <p>2-1 世界会議(フィリピン) 異文化理解の機会とするために、現地調査を行い、現地の魅力を伝える情報発信(参加促進動画)を作成します。そして、アテンダンスブックを配信後に委員会訪問をおこないます。委員会訪問時に事前調査へ行ったご当地のお土産を持参し配るとともに委員会で作成した動画を視聴してもらい国際交流事業の意義と目的を理解してもらいます。</p> <p>3-1 9月例会 「国際」への理解を深めるために、事前アンケート等を通じて参加者の声を拾います。国際都市神戸として、今後どのように発展していくのかを行政含め、皆で考えるきっかけとなる例会を実現します。</p>
パートナー	<p>HJJCC</p> <p>シンガポール・シティ青年会議所</p> <p>高雄青年会議所</p> <p>シアトル青年会議所</p> <p>公益社団法人日本青年会議所</p> <p>神戸日米協会</p>
委員会運営	本委員会は、ただ事業をこなす場ではなく、私たちが未来をつくる力を磨く場です。挑戦の中で【①事業構築力】を学び、企画から実行、検証までをやり抜く力を身につけます。同時に【②組織構築力】を学び、仲間と信頼を築き合いながら成果を最大化する力を養います。ここで得た経験は、必ず会社経営にいかされ、新たな事業を切り拓く力となり、そして家族を守り幸せにする力へと繋がります。青年会議所の活動を通じ、仲間と共に挑戦し、学びを実生活に還元することで、会社も家庭も誇れる未来を築く委員会運営を実現します。

年間事業フレーム

国際交流委員会
委員長 藤野 竜太郎

全 国 大 会	世 界 会 議	京 都 会 議 (京 都)	A S P A C	サ ン ゴ ウ コ ン	全 国 大 会	世 界 会 議
------------------	------------------	--------------------------------------	-----------------------	----------------------------	------------------	------------------

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
9月例会の企画、設営及び実施に関する業務	企画・立案・調査							議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備 案内	例会	議案 (決算)	引継ぎ		
ASPAC(新潟)への参加促進、交通宿泊、LOMナイト実施に関する業務	企画・立案・調査					準備・案内		ASPAC参 加	検証	/			引継ぎ			
ASPAC(新潟)でのブース出展に関する業務	企画・立案・調査			議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備 案内	ASPAC参 加	議案 (決算)				引継ぎ			
世界会議(フィリピン)への参加促進、交通宿泊、LOMナイト実施に関する業務	企画・立案・調査										準備・案内		世界会議参 加	検証		
世界会議(フィリピン)でのブース出展に関する業務	企画・立案・調査										議案 (協議)	議案 (審議)	準備 案内	世界会議 参加	議案 (決算)	
海外姉妹LOM(シンガポール・シティ青年会議所、シアトル青年会議所、高雄青年会議所)、海外友LOM(HJJCC)との交流に関するすべての業務	連絡業務・交流推進・調査											引継ぎ				
国際交流に関する地域の諸団体との連絡調整、及び交流に関するすべての業務	連絡業務・交流推進・調査											引継ぎ				
日本青年会議所グローバルユース国連大使に関する業務	調査・連携			募集・連携					/				引継ぎ			
JCIAアカデミーに関する業務	調査・連携			募集・連携									引継ぎ			

一般社団法人 神戸青年会議所 交流室	
国内交流委員会	
担当副理事長:久保田 誠	
担当常任理事:足立 教至	
委員長:西村 龍哉	
副委員長:小野田 信	
副委員長:福田 凌丞	
運営幹事:上石 洪生	
会計幹事:高橋 真耶	
次世代が誇れる神戸の姿	次世代へ誇れる青年経済人になるには、メンバー一人ひとりが誇りと責任を持って行動することが重要です。仲間と学び合い、信頼を深め、交流を通じて絆を広げることで、共に成長し合えるメンバーを増やしていきます。多様な価値観を尊重しながら新しい力を生み出すことで、神戸の魅力をさらに磨き、次世代へ誇れる永続的な絆を目指します。
設置背景	神戸青年会議所は、これまで交流を通じて多くの友情を育み、ともに学び合うことで成長を重ねてきました。神戸のまちがさらに発展していくには、神戸青年会議所のメンバーが成長し魅力ある人材になっていくことに加え、各地青年会議所メンバーと意見を交わし、自身とは違う経験や価値観を共有していく必要があります。
設置目的	<p>■国内友好LOMメンバーとの対話で、地域と役職の垣根を越えて多様性のある情報交換を行い、お互いに学び、ともに成長することを目的とします。</p> <p>・国内友好LOMとの交流の意義や目的を、歴の浅いメンバーにも理解してもらえるよう、事前にアテンダンスブックを配信し学び合う成長の場を設けます。</p> <p>■多様な価値観や考え方を学び、自身の成長に繋げることを目的とします。</p> <p>・京都会議で各地青年会議所メンバーと意見をかわすことで、共通点や違いを学びに変え、共に成長し続ける仲間としての絆を深めます。</p> <p>・京都会議を通じてJC運動の意義や目的を理解し、その学びを自らの成長へと繋げていくことにより、LOMの次世代を担う人材を輩出します。</p>
KGI	1-1 友好LOMとの訪問国内交流事業への参加動員人数を80人以上とします。
	1-2 友好LOMとの来神国内交流事業への参加動員人数を130人以上とします。
	2-1 京都会議の事後アンケートで入会歴3年以上のメンバーにおいて「自身の成長に繋がった」「JC運動の意義を再認識できた」と回答する比率を80%以上にします。
	2-2 京都会議の事後アンケートで入会歴3年以下のメンバーにおいて「自身の成長に繋がった」「JC運動の意義を理解できた」と回答する比率を80%以上にします。
KPI	1-1 友好LOMとの訪問国内交流事業への参加意義が理解できるアテンダンスブックを1カ月前までに配信し、3週間前までに出席確認率100%を達成します。
	1-2 友好LOMとの訪問国内交流事業への参加意義が理解できるアテンダンスブックを1カ月前までに配信し、3週間前までに出席確認率100%を達成します。
	2-1 京都会議の意義や魅力を感じれる情報提供を2回します(「学び」と「遊び」)。
政策手法	<p>1-1 訪問国内交流事業 アテンダンスブックを配信後委員会訪問をおこないます。委員会訪問時に事前調査へ行ったご当地のお土産を持参し配るとともに委員会で作成した動画を視聴してもらい国内交流事業の意義と目的を理解してもらいます。委員会訪問後に出席確認をおこない、検討している又は不参加者に対して個別に連絡を取り、更なる参加促進をおこないます。</p> <p>1-2 来神国内交流事業 アテンダンスブックを配信後委員会訪問をおこないます。委員会訪問時にご当地の服装を着用し、委員会で作成した動画を視聴してもらい国内交流事業の意義と目的を理解してもらいます。委員会訪問後に出席確認をおこない、検討している又は不参加者に対して個別に連絡を取り、更なる参加促進をおこないます。</p> <p>2-1 京都会議 京都会議の「学び」のアテンダンスブックを作成し配信します。 具体的には京都会議の意義や目的、ファンクションの説明など、京都会議の学びを詰め込みます。 京都会議の「遊び」のアテンダンスブックを作成し配信します。 具体的には委員会ナイトや2次会で使用できる飲食店等の資料を作成します。</p>
パートナー	公益社団法人日本青年会議所
	一般社団法人長崎青年会議所
	一般社団法人徳島青年会議所
	一般社団法人横浜青年会議所
	各地青年会議所
委員会運営	国内交流委員会では、「対話」と「挑戦」を軸に活動を進めていきます。本音で語り合い、互いを認め合うことで、前向きに意見を交わせる関係を楽しみます。対話の中から新しい発想が生まれ、時には壁にぶつかっても、挑戦を恐れず一歩を踏み出す姿勢を大切にします。こうした積み重ねが信頼を育み、個人の成長と委員会全体の絆が深まり、一年を振り返ったとき、「この仲間と活動できて本当に良かった」と素直に思える委員会を目指します。

年間事業フレーム

国内交流委員会
委員長 西村 龍哉

全
国
大
会

世
界
会
議

京
都
会
議
(
京
都
)

A
S
P
A
C

サ
マ
コ
ン

全
国
大
会

世
界
会
議

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
京都会議への参加促進、交通宿泊、LOMナイト実施に関する業務	議案 (協議)	議案 (審議)	準備 案内	京都会議 実施 検証	議案 (決算)								引継ぎ			
国内友好LOM(長崎JC、横浜JC、徳島JC)との交流に関するすべての業務	企画・立案・調査	長崎定例会議実施	検証													引継ぎ
	企画立案調査	議案 (協議)	議案 (審議)	準備・案内		横浜定例会議実施		議案 (決算)								引継ぎ
	企画・立案・調査				徳島定例会議実施	検証										引継ぎ
	国内交流に関する地域の諸団体との連絡調整、及び交流に関するすべての業務															連絡業務・交流推進・調査
日本JC価値デザインに関する業務				エントリー募集支援												引継ぎ

一般社団法人 神戸青年会議所 組織ブランディング室	
広報委員会	
担当副理事長:菅 圭市	
担当常任理事:佐長 すみれ	
委員長:金谷 亮佑	
副委員長:秋本 卓治	
副委員長:松下 諒多	
運営幹事:河合 孝治	
会計幹事:福本 篤史	
次世代が誇れる神戸の姿	広報は日々の出来事を記録し、未来に伝える使命を担います。積み重ねられた発信は市民の共感を生み、まちへの誇りや参加の意識を育て、人が共にまちを創る文化が地域に根付くことによって、まちを一步前へ進める、新たな価値を生み出す神戸の姿を築きます。
設置背景	神戸青年会議所では、多岐にわたる事業を通じて神戸の魅力を高め、まちの活性化に寄与する活動が展開されています。全国大会主管都市として注目を集める今、そうした取り組みを丁寧に伝えることで、市民と想いを共有し、新たな価値を共に創り出す姿勢が求められています。
設置目的	<p>■ 一貫性ある広報戦略を確立し、組織ブランドを強化することを目的とします。 神戸青年会議所の魅力をより効果的に伝えるため、撮影・発信・記録を整然と仕組み化し、他委員会と連携することで効率的な発信体制を構築します。これにより、広報本来の役割である「伝える力」を拡張し、共感を呼ぶ発信を実現することで、共創の基盤を広げます。また、仕組み化により広報のノウハウを次年度へ確実に継承し、持続可能な体制を築きます。</p> <p>■ 3月例会を通じて、メンバーが広報の意義を理解し、発信力を組織全体に広げることが目的とします。 メンバーが互いの想いを共有しながら広報活動に主体的に参画し、組織の魅力を共に発信していく体制を築くことを目的とします。広報を一部の担当者の役割にとどめず、当事者意識を持って捉えることで、組織全体の一体感と発信の質の向上を図ります。これにより、神戸青年会議所全体のブランディング力が高まり、全国大会主管LOMとして市民に活動を正しく届ける組織を目指します。</p>
KGI	1-1 各SNS投稿を年間100回以上配信し、合計リーチ数5万件以上を達成します。
	1-2 各委員会と効率的な連携を図るため、広報幹事を設置します。
	1-3 web媒体「若い力(WAKACHIKA)」(以下、ワカチカ)をJCブランド価値を高める対内外広報ツールとして位置づけ、内外部が興味関心を持つ内容を年3回作成し、アクセス数前年比150%を達成します。
	2-1 3月例会を通じて、効率化や仕組み化の知見を習得し、実務にいかせる実践的な学びに繋げるため例会参加者の80%以上が「実務にいかせる学びがあった」とアンケートで回答
KPI	1-1 投稿1本あたり平均リーチ数250件を確保します。
	1-2 広報委員会メンバー全員に撮影・記録の基礎研修を実施、その内容を広報幹事に共有します。
	1-3 カウンターパート最低1社以上と連携し、ワカチカの取材内容を共有、閲覧率の底上げを実現します。
	2-1 学びを整理した「広報実務チェックリスト」を1種類作成します。
政策手法	1-1 広報活動の仕組み化 誰もが安定した広報活動を支える組織を実現するために、撮影・記録業務を整理し、全体で共有できる仕組みを整えます。仕組みを標準化することで、業務の属人化を防ぎ、その結果、組織全体で均質な発信が可能となり、広報体制が持続的に強化されます。また、活動の魅力が社会に正しく届けるために、SNS・動画・プレスを計画的に発信することで、情報を多面的に広げます。その結果、市民や行政に活動が届き、行政と共に共感と信頼を獲得する組織となります。
	1-2 広報幹事の設置 各委員会に、広報幹事を設置します。広報幹事を設置することで、委員会内での撮影・記録、広報委員会との連携業務がスムーズになり、結果だけでなく過程の共有が行え、各委員会の出席率向上にも繋がります。
	撮影依頼書の策定 撮影依頼書は広報幹事へ配布し、各委員会が事業を「伝える主体」となる仕組みを整えるためのツールとします。事業目的や伝えたい想いを簡潔に記入できる構成とし、撮影箇所・優先カット・使用媒体を明確化することで、撮影依頼がはじめてのメンバーでも迷わず活用できるようにします。 撮影依頼書の活用は、他委員会の発信への関心と、事業参加意欲を高めます。担当事業を伝える意識を持つことで、事業への向き合い方が変化し、過程の発信が可能になります。また、今まで以上に温度の乗った広報が可能になります。
	1-3 ワカチカ作成に関する業務 メンバーのブランドロイヤリティを高めるために、「ワカチカ」を対内広報ツールとして年3回発行します。その際、各委員会から素材を収集し、記事の読みやすさ・わかりやすさを重視した編集を行うことで、メンバーの80%以上が興味や関心を持つ媒体を実現します。その結果、組織内の情報共有が深化し、メンバー一人ひとりが活動に誇りを持ち、持続的な参画意識が高まります。また、ワカチカを対内外に周知させるためにメディアと連携し、閲覧率の底上げを実現します。
	2-1 3月例会の企画、設営及び実施に関する業務 メンバーが実務にいかせる力を身につけるために、効率化や仕組み化に関する知見を共有する場を設け、必要であれば専門家を招き入れることで、具体的な手法を学ぶ機会を提供します。例会で具体的な手法を学ぶ場を設けることで、再現性のある知識を習得します。
パートナー	神戸市経済観光局
	地元新聞社、雑誌webメディア(神戸新聞社、神戸ジャーナル、関西ウォーカー)
	地元テレビ局・ラジオ局(サンテレビ、関西テレビ、テレビ大阪、ラジオ関西、Kiss FM KOBE)
	地元企業(株式会社神戸デジタル・ラボ、株式会社078、株式会社フェリスシモ)
	地元大学(神戸大学、神戸流通科学大学など神戸市内大学・広報観光学生団体)
委員会運営	広報委員会は「進化」をテーマに活動します。撮影や記録を標準化し、誰もが一定の水準で広報活動を支える体制を整えることで、組織全体の力を「進化」させます。依頼書やマニュアルを活用し、他委員会と協力しながら、メンバー一人ひとりが実務を通して学び、成長を実感できる環境を築きます。若手は挑戦から多くを学び、経験者は導く立場として力を発揮し、互いの失敗や迷いも共有しながら、人間力の成長を遂げます。活動の中で生まれる絆を大切に、委員会を超えても繋がり続ける仲間が生まれるような、温かく前向きな委員会を目指します。

年間事業フレーム

広報委員会

委員長 金谷 亮佑

全
国
大
会

世
界
会
議

京
都
会
議
(
京
都
)

A
S
P
A
C

サ
マ
コ
ン

全
国
大
会

世
界
会
議

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
3月例会の企画、設営及び実施に関する業務	企画・立案・調査	議案(討議)	議案(協議)	議案(審議)	準備	実施	検証	議案(決算)								
LOM紹介映像の作成及び発信に関する業務	議案(審議)(決算)	撮影	完成	決算審議		次年度引継ぎ										
広報戦略計画作成の件	企画・立案・調査	議案(協議)	議案(審議)	各事業の実施写真及び収集・発信								検証	議案(決算)	引継ぎ		
若い力作成に関する業務				調査・企画立案			議案	議案・作成	若い力発信	議案・作成	若い力発信	作成	若い力発信	引継ぎ		
事業報告書作成に関する業務	各事業の実施写真撮影及び収集											議案(討議)	議案(協議)	議案(審議)	実施	議案(決算)
対内事業及び対外事業、執行部の対外職務に関する活動記録の保存	各事業の実施写真撮影及び収集・保存・管理業務														引継ぎ	

一般社団法人 神戸青年会議所 組織ブランディング室	
例会委員会	
担当副理事長:菅 圭市	
担当常任理事:佐長 すみれ	
委員長:高見澤 将希	
副委員長:安積 雄平	
副委員長:福岡 孝信	
運営幹事:金田 真世	
会計幹事:渡邊 華穂	
次世代が誇れる神戸の姿	神戸青年会議所メンバーは例会を通じて、多様な分野での学びを得て多面的な視野を広げてきました。メンバーが交流を深めながら成長をし、次世代のリーダーを生み出し続けることで、まちや社会に貢献する人財を増やし、神戸のまちが発展し続ける姿。
設置背景	神戸青年会議所ではこれまでに、成長と学びの機会として様々な例会を実施してきました。メンバーが組織の中で学びや交流を深めるだけでなく、共通認識を持つ必要があります。神戸のまちの今後について考えるきっかけを創出することで神戸青年会議所メンバーが起点となり、地域の持続的な発展に寄与し続けることが必要です。
設置目的	<ul style="list-style-type: none"> ■毎月の例会をメンバーの交流、学びの場として提供することを目的とします。 ・メンバー一人ひとりが顔を合わせ、ともに学ぶことで共通のビジョンが形成され信頼関係が生まれます。 ・神戸青年会議所メンバーがともにつくりあげていくという当事者意識を持って例会へ参加することで、個々の成長に繋がりが組織を動かす共創の精神を育みます。 ■新年互礼会を今年度の理事長方針の理解を深め、全国大会神戸大会への協力を求める場とすることを目的とします。 ・メンバー全員に共通の意識が生まれ、今年度の運動の道しるべとなります。 ・これまでの活動へのご協力に感謝の意を込めるとともに、今年度の活動への更なる理解と協力を促します。 ■12月例会では一年間の活動を振り返り、卒業生の方々に敬意を評し送り出す場とすることを目的とします。 ・一年間の活動を振り返ることで、次年度への機運を高めて進み出す場とします。
KGI	1-1 1年間の例会出席率90%を達成します。
	1-2 6月例会の事後アンケート「主体性を持って参加できた」の回答90%以上を達成します。
	2-1 新年互礼会の事後アンケート「2026年度の理事長方針を理解できた」の回答90%以上を達成します。
	3-1 12月例会の事後アンケートにおいて「1年の振り返りができた」の回答90%以上を達成します。
KPI	1-1 次月例会参加促進を委員長、運営幹事より月1回以上行います。
	1-2 例会参加者同士がコミュニケーションを取れる機会を設けます。
	2-1 新年互礼会の当日出席率90%を達成します。
	3-1 1年の振り返りができる設えをします。
政策手法	<p>1-1 例会出席率向上のため、まず例会の2週間前に運営幹事を通じて各委員会の出席状況を把握します。例会開催の1週間前時点で、当日の出席予定率が90%を下回る委員会については、例会委員長から委員長宛に連絡を行い、出席を促します。また例会の案内や出席の呼びかけを強化するため、公式LINEアカウントを活用して情報発信を行います。</p> <p>1-2 グループワーク等の事業例会を実施することで、メンバー一人ひとりが主体性を持って取り組みます。行政、在神企業、在神学校、在神スポーツ団体等の地域に関連する団体と連携して例会を実施することで、神戸青年会議所メンバーが地域に果たす役割を認識します。</p> <p>2-1 新年互礼会事前動画を作成し、新入会メンバーにも意義が伝わるように配信を行います。また、理事長方針をアーカイブ化し、当日欠席者に視聴いただきます。</p> <p>3-1 広報委員会と連携し、1年の活動を振り返る心に残るスライドショーを実施します。</p>
パートナー	株式会社ホテルマネジメントジャパン
	株式会社ポートピアホテル
	株式会社オークラ ニッコー ホテルマネジメント
	新神戸ホールディングス
	The Under Shot
委員会運営	例会委員会では1年間を通じて「Integration」をテーマに委員会運営を行います。例会設営という重要な職務を行うなかで「統一」するのではなく、「統合」する考えを取り入れます。委員会メンバーそれぞれの強みはいかしく、弱みはメンバー同士で補います。一つのチームとして成長していく重要な要素であり、個々の成長も促すことができます。メンバー個人の成長を止めずにお互いを尊重し合い高め合える関係性を築いていきます。年齢や所属期間に関係なく、気軽にコミュニケーションを図れる環境づくりを行い、ともに想いを育む委員会運営を行います。

年間事業フレーム

例会委員会

委員長 高見澤 将希

全 国 大 会	世 界 会 議	京 都 会 議 (京 都)	A S P A C	サ マ コ ン	全 国 大 会	世 界 会 議
------------------	------------------	--------------------------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
■新年互礼会に関する資料の作成、発送に関する業務 ■新年互礼会の企画、設営及び実施に関する業務	案内状/礼状準備		発送業務	新年互礼会 実施	議案 (決算)		次年度引継ぎ								
	企画立案														
	議案 (協議)	議案 (審議)	企画準備												
■6月例会の企画、設営及び実施に関する業務	次年度引継ぎ			企画立案	議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	準備	実施	検証	議案 (決算)	次年度引継ぎ			
■12月例会の企画、設営及び実施に関する業務				企画立案			前年度引継ぎ			干支の会との連携					
■例会基本運営の作成に関する業務 ■例会構築に携わるカウンターパートとの連携に関する業務の補佐 ■その他、例会に関するすべての業務	企画立案			通常例会の設営 担当委員会フォロー業務実施											
	議案 (協議)			議案 (審議)			次年度引継ぎ								
■例会の出席率向上を図る手法の調査、研究及び実践に関する業務	企画立案			例会 実施 検証											
■日本JCカーボンニュートラル事業に関する業務	適宜														次年度 引継ぎ

一般社団法人 神戸青年会議所 総務室	
総務委員会	
担当専務理事:福田 昌悟	
担当常任理事:和田 昂樹	
委員長:滝本 敦子	
副委員長:稲満 健吾	
副委員長:岡崎 啓介	
運営幹事:中村 季永	
会計幹事:中上 好真	
次世代が誇れる神戸の姿	受け継がれてきた規律が組織内で周知され、新しい知見を取り入れながら強固な組織基盤が築かれています。そのうえで諸会議において発展的な議論を経た民主的意思決定がされ、正確な情報が適切に管理され内外に向けて開示されることにより社会の信頼を厚くします。その信頼のもとで志に共感する多様な人が手を挙げ、ともに運動を展開している姿。
設置背景	神戸青年会議所は、これまで諸会議を通じて発展的な議論を行い意思決定してまちをより良くするための運動を続けてきました。さらに神戸のまちの発展に寄与していくには、持続可能なより質の高い運動を展開していかなければなりません。そのためには、円滑な会議運営と、挑戦し続けるメンバーの活動を確実に支える安定した組織の土台が必要です。
設置目的	<p>■諸会議において質の高い議論が行われる環境をつくることを目的とします。</p> <p>諸会議において、形式面の指摘などの無用な議論がなくなり、有益な意見交換が効率的に行われ、事業の中身についての質の高い議論がなされる環境を整えます。</p> <p>■組織の一員であることを自覚し当事者意識を持って事業に参画する神戸青年会議所メンバーを増やすことを目的とします。</p> <p>より多くのメンバーが、神戸青年会議所において守られてきた規律、運動の意義や事業の内容をより良く理解し、組織の一員として事業に対し当事者意識を持つことができるよう導きます。</p>
KGI	<p>1-1 理事会における設営及び体裁面での指摘を0にします。</p> <p>2-1 電子名簿の情報について実情との不一致を0にします。</p> <p>3-1 2026年12月にアンケートを実施し、「神戸青年会議所の運動により積極的に参画できた」の回答90%以上を達成します。</p>
KPI	<p>1-1 諸会議設営及び総務チェックに関する会議を総務委員会で月1回以上開催します。</p> <p>1-2 2025年11月末までに総務委員会内で使用する理事会設営・総務チェックマニュアルを作成し、その後は月1回の委員会ごとに内容をブラッシュアップします。</p> <p>1-3 2025年11月末までに議案作成マニュアルを作成し、各委員会スタッフに共有します。</p> <p>2-1 2025年12月末までに、電子名簿に記載する現役メンバーに関する正確な情報を収集し、その後は情報の変更がないか月1回確認のアナウンスを行います。</p> <p>3-1 新入会員は1人あたり年6回以上、新入会員以外のメンバーは1人あたり年4回以上、理事会にオブザーブ参加していただきます。</p> <p>3-2 毎月1回、審議上程を控えた委員会に訪問し、各委員長によるオブザーブ参加の呼び掛けを後押しします。</p> <p>3-3 5月例会事後アンケートにおいて「チームで活動することの意義を感じられた」の回答90%以上を達成します。</p> <p>3-4 兵庫ブロック大会への参加者100名以上を達成します。</p> <p>3-5 2026年12月に実施するアンケートの回答者率90%以上を達成します。</p>
政策手法	<p>1-1 諸会議において充実した議論が行われるために、定期的に委員会内で会議の設営及び総務チェックに関する会議を開催し、総務チェックの方法を確認するとともに、より効率的且つ取りこぼしのない会議設営・総務チェックの方法を研究します。</p> <p>1-2 諸会議の設営及び議案のチェックを総務委員会メンバー全員が同じレベルで行うことができるようにするため、理事会設営・総務チェックマニュアルを作成し定期的にブラッシュアップを行います。</p> <p>1-3 議案の作成を担当するスタッフが統一語句などのルールを理解したうえで議案を作成し総務チェックによる大幅な修正などの手間を省いて効率的に議案上程をできるようにするため、議案作成マニュアルを作成して各委員会スタッフに共有します。</p> <p>2-1 メンバーの神戸青年会議所の組織に対する理解を深めるため、メンバーが常に必要な情報にアクセスできるよう定期的にアナウンスを行い正確な情報を収集し名簿に反映させます。</p> <p>3-1 個々のメンバーが神戸青年会議所の規律、運動の意義や事業の内容をより良く理解し意欲的に活動できるようにするため、すべてのメンバーに年複数回の理事会へのオブザーブ参加を促すことで組織への帰属意識と事業に対する当事者意識を高めます。</p> <p>3-2 より多くの理事会のオブザーブ参加を促すため、毎月1回、総務委員会メンバーで分担して審議上程を控えた委員会に訪問します。そのうえで、理事会への参加資格や参加の意義を説明することにより各委員長がメンバーのオブザーブ参加を呼び掛ける後押しをするとともに、理事会設営や総務チェックを行う総務委員会の顔を知ってもらうことで参加の意欲を高める契機とします。</p> <p>3-3 5月例会では、神戸青年会議所が多様な人と共創していくにあたり組織内の結束をさらに強くするため、チームビルディングに関する講演を行っていただける講師を招き、メンバーが組織の一員として一丸となり組織に貢献することの意義を感じられる機会を提供します。</p> <p>3-4 兵庫ブロック大会では、来る全国大会に向けて組織としての結束力をさらに強くする必要があります。そのためには多くの動員が必要であり、配信メール及び公式LINEにおいてアテンダンスブックを各1回配信し、各委員会への要望依頼を1回行うとともに、各委員会の運営幹事を通じて2回以上参加の依頼を行います。</p> <p>3-5 2026年12月に実施するアンケートにより多くのメンバーに回答してもらうため、配信メール及び公式LINEにて各1回アンケートを配信するとともに、各委員会の運営幹事を通じて2回以上回答依頼を行います。</p>
パートナー	<p>交友印刷株式会社</p> <p>株式会社atGunGun</p> <p>株式会社アップテラス</p> <p>神戸メリケンパークオリエンタルホテル</p> <p>ANAクラウンプラザホテル神戸</p> <p>神戸ポートピアホテル</p> <p>オリエンタルホテル神戸</p> <p>神戸市内各所ホテル</p> <p>長崎青年会議所</p> <p>横浜青年会議所</p> <p>徳島青年会議所</p> <p>各委員会</p>
委員会運営	総務委員会は、「心理的安全性」をテーマに活動します。互いが持つ個性、能力や背景を尊重し、補い合いながら活動することができる環境を整えることで、メンバーが委員会という場所に深い安心感を得られるようにし、個々のパフォーマンスを最大化するとともに、メンバー同士の将来にわたって継続できる安定的な関係性を醸成します。そして、それぞれの職務の意義を委員会メンバーがしっかりと理解し共有し合うことができる場を設けることにより、全員が誇りとやりがいを持って職務を全うし、内外の誰からも信頼される委員会となります。

年間事業フレーム

総務委員会
委員長 滝本 敦子

運動・事業名	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
5月例会の企画、設営及び実施に関する業務	例会内容調査・研究									議案 (討議)	議案 (協議)	議案 (審議)	例会準備	例会設営 実施	引継	議案 (決算) 引継	引継																												
各委員会の議案上程に関する業務	アジェンダシステムの管理並びに総務チェック																																												
総会、理事会及び各会議の開催、運営に関する業務	第2回予定 者理事 会、第3回 予定者 理事会	第4回予定 者理事 会	第5回予定 者理事 会	第1回 理事会	第2回 理事会	第3回 理事会	第4回 理事会	第5回 理事会	第6回 理事会	第7回 理事会	第8回 理事会	第9回 理事会	第10回 理事会	第11回 理事会	第12回 理事会																														
国内友好LOM(長崎JC、横浜JC、徳島JC)との会議に関する業務	長崎定例 会議準備	長崎定例 会議実施	徳島定例 会議準備	議案 (報告)	徳島定例 会議実施	横浜定例 会議実施	議案 (報告)	議案 (報告)	引継																																				
事務局の管理、運営に関する業務	引継	事務局の管理、運営に関する業務																								引継																			
基本資料、会員名簿及び関係資料の作成管理に関する業務	基本資料、 会員名簿作成・ 進行	議案 (協議)	議案 (審議)	配布				議案 (決算)	基本資料、会員名簿管理と更新				基本資料、会員名簿管理と更新	引継																															
デジタル会員名簿の管理、利用促進及び利便性向上に関する業務	調査・研究・随時修正更新																								引継																				
会員及び特別会員に対する情報共有の管理、運営に関する業務	調査・研究																																												
定款及び諸規定の研究及び見直しに関する調査、研究	調査・研究	議案 (審議)	調査・研究																																	引継									
会議運営の合理化且つ合理的な手法の研究及び実施に関する業務	引継	会議運営の合理化且つ合理的な手法の研究及び実施に関する業務																								引継																			
兵庫ブロック大会への参加促進及びブース出展に関する業務	企画立案									議案 (審議)	大会案内	大会実施	報告	議案 (決算)	引継																														
褒賞に関する業務	褒章に関する調査・研究												議案 (協議)	議案 (審議)	準備	実施 議案 (決算)																													

一般社団法人 神戸青年会議所 総務室	
財務規則委員会	
担当専務理事: 福田 昌悟	
担当常任理事: 和田 昂樹	
委員長: 伊田 昌玄	
副委員長: 岡本 祥佑	
副委員長: 青木 仁	
運営幹事: 坂本 茜	
会計幹事: 岸本 祐佳	
次世代が誇れる神戸の姿	誰にでも説明できる事業計画の策定や、関係者間の合意形成を図りながらプロジェクトを推進する力を養ったリーダーが、自ら行動を起こし他者や他団体を巻き込みながら、垣根を越えて共創する都市となります。そして、地域課題解決に取り組む市民が増え、神戸がさらに豊かで個性あふれる魅力的なまちへと進化する姿。
設置背景	神戸青年会議所は、200名超のメンバーを擁する全国有数の規模となります。毎年10超の委員会を組織し同数の委員長が輩出される一方で、委員長になるまでの在籍年数が短縮傾向にあります。神戸を牽引する中核組織であり続けるには、信頼される組織運営の仕組みを磨くとともに、誰もが運動構築に深く携わり、貢献できる環境整備が必要です。
設置目的	<ul style="list-style-type: none"> ■関わる全ての人々の神戸青年会議所への信頼性をより高めることを目的とします。各事業の財務面、コンプライアンス面を審査し、透明性と正確性の高い事業構築に貢献します。 ■2026年度の神戸青年会議所が行う全事業が、目的達成できる環境を整えることを目的とします。事業当日を具体的にイメージし、リスクを減らし、新しい視点を付与できる財務規則審査を行います。 ■主体的に運動構築を行えるメンバーを増やすことを目的とします。財務規則審査会の運営により、各委員会メンバーの議案書作成や予算書作成能力を育むとともに、青年会議所の会議システムを理解し、その運用に長けたメンバーを増やします。また、JC活動が自身の成長や自社の発展に繋がると感じられる機会を創出します。
KGI	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 事前チェックを徹底し、審議に必要な資料の提出漏れ及び記述漏れを0にします。 2-1 7月に各委員会のスタッフ及び新入会メンバーに対してアンケートを実施し、「議案書作成や予算書作成能力が向上した。」及び「会議を重ねることでより事業成功に近づくと実感した。」の回答70%以上を達成します。 3-1 6月にセミナー参加者に対してアンケートを実施し、「JC活動が自身の成長や自社の発展に繋がると感じる。」の回答80%以上を達成します。 3-2 サマーコンファレンスの参加率70%以上を達成します。
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 毎月1回、財務規則審査会前に、委員会で財務面及びコンプライアンス面の勉強会を行います。 2-1 委員長、議案担当副委員長、会計幹事、新入会員1人以上に、各財務規則審査会に参加していただきます。 3-1 2回行うセミナーの出席率を、各60%以上を達成します。 3-2 例会での要望依頼、財務規則委員会によるセミナーでの告知、各委員会活動への訪問をそれぞれ1回以上行い、サマーコンファレンスへの参加意義や何を求められるのかを説明し、動員依頼を行います。
政策手法	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 【財務規則委員会より5日前】 次回財務規則審査会の案内及びエントリー開始のアナウンスを行います。 各委員長に当日までのスケジュール及び委員会メンバーの役割を再確認していただきます。 1-1 【財務規則委員会より3日前】 財務規則審査会にて勉強会を行い、その後各議案の事前チェックを行います。 事前意見質問を行うとともに、アジェンダ次第を公開し、各委員会の審議開始の時間を伝達します。 2-1 委員長に「議案の概要及び目的について」 会計幹事に「予算書について」 副委員長及び新入会委員に「事前意見に対する主な修正点」を1回以上発言していただきます。 2-2 各委員会のスタッフ及び新入会メンバーに対して3回アンケートを行います。 【一回目アンケート】1月度 財務規則審査会の意義や会議内容の理解度を調査します。 【二回目アンケート】4月度 「議案作成や予算書作成能力が向上した。」及び「会議を重ねることでより事業成功に近づくと実感した。」の回答の上昇率を検証します。 【三回目アンケート】7月度 「議案作成や予算書作成能力が向上した。」及び「会議を重ねることでより事業成功に近づくと実感した。」の回答の70%を達成します。 3-1 審議可決後、委員会訪問を行い、2月セミナーの案内を行います。 また、1月に配信メール及び公式LINEにて配信を行います。 3-2 本年度の活動意欲を掻き立てるセミナーを2月に行います。 JC活動が自身の成長に繋がると、その先に地域発展にも貢献できる事を感じられるセミナーとします。 3-3 審議可決後、委員会訪問を行い、6月セミナーの案内を行います。 また、5月に配信メール及び公式LINEにて配信を行います。 3-4 次年度に向けて役職を受けたいとなるセミナーを6月に行います。 JC活動が自身の成長と共に社業の発展にも繋がると、JCが自己実現の強力なツールであることを感じられるセミナーとします。 3-5 サマーコンファレンスにおいてLOMナイトを開催し、神戸JCを代表して各地で活躍されている出向者の皆様の活動内容を紹介し、その活躍を讃える場を設けます。また活動が残っている出向者に対しては、さらなる支援を約束する内容内容とします。 3-6 全国大会神戸大会へ向けた機運をさらに高めるプログラムをLOMナイトに設けます。
パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 総務委員会 近畿地区協議会 日本青年会議所 主権者意識向上委員会 近畿日本ツーリスト株式会社 神戸青年会議所事務局
委員会運営	<p>財務委員会は、「安定と成長」をテーマに活動を行います。</p> <p>200名を超える組織において、そして神戸のまちの一員として、リーダーシップの発揮の仕方は様々あります。全員が最前線で旗を振っても、全員が線の下の方持ちとして下支えを誓おうとも、組織は円滑には動きません。様々なキャラクターのリーダーが居てこそ、そして時と場合によってリーダーの質を使い分けられる人材が育ってこそ、組織もまちもより良くなります。本年度財務規則委員会は、財務規則審査会を軸に各委員会が計画実施される全ての事業が成功裏に終わるように下支えを行います。そこには委員会メンバー全員で、安定したパフォーマンスを通年で発揮し続ける必要があります。また、財務規則審査会の運営やセミナーを企画実施することで、委員会メンバーは多様なリーダー像を目の当たりにすることとなり、次年度以降もより神戸青年会議所やまちに対して貢献できる人材となるべく、自らの目指すリーダー像を見つけ、そこに向けて成長できる一年となる委員会とします。</p>

年間事業フレーム

財務委員会

委員長：伊田 昌玄

全
国
大
会

世
界
会
議

京
都
会
議
（
京
都
）

A
S
P
A
C

サ
マ
コ
ン

全
国
大
会

世
界
会
議

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
財務規則審査会の運営に関する業務	第1回予定期財務規則審査会議	第2回予定期財務規則審査会議	第3回予定期財務規則審査会議	第1回財務規則審査会議	第2回財務規則審査会議	第3回財務規則審査会議	第4回財務規則審査会議	第5回財務規則審査会議	第6回財務規則審査会議	第7回財務規則審査会議	第8回財務規則審査会議	第9回財務規則審査会議	第10回財務規則審査会議	第11回財務規則審査会議	第12回財務規則審査会議	
コンプライアンスの遵守に関する業務																
コンプライアンスの体制の構築、改善に関する業務	調査・研究			コンプラチェックマニュアル作成			マニュアル見直し			検証			引継ぎ			
各事業で使用される事務局備品の管理に関する業務	調査・準備			事務局との連携・各備品類の管理											引継ぎ	
会議運営の合理化且つ有効手法の研究及び実施に関する業務	調査・研究			アンケート①	財務チェックマニュアル作成	アンケート②	マニュアル見直し	アンケート③	検証			引継ぎ				
会費等の徴収に関する業務	準備	会費等の徴収に関する業務													引継ぎ	
会員研修に関する業務	one Impact セミナー	議案(協議)	議案(審議)	準備	プログラム	議案(協議)	議案(決算)	議案(審議)	準備	ビジネスプログラム	/	議案(決算)	/			引継ぎ
サマーコンファレンスへの参加促進、交通宿泊、LOMナイト実施に関する業務	/		企画・立案・調査			議案(討議)	議案(協議)	議案(協議)	準備	実施	/		議案(決算)	/		引継ぎ
日本JC政策甲子園に関する業務	/			連携・準備			エントリー窓口業務			実施			/		引継ぎ	

一般社団法人 神戸青年会議所 専務室	
渉外委員会	
担当専務理事:福田 昌悟	
担当常任理事:酒井 将利	
委員長:石野 優太	
副委員長:栄藤 舞	
副委員長:堀口 尋生	
運営幹事:仙波 優子	
会計幹事:北田 峻也	
次世代が誇れる神戸の姿	全国大会で培った結束と信頼が組織の基盤となり、出向者の挑戦や学びが広く共有されることで、新たな価値を生み出す風土が醸成されます。その力が渉外活動を通じて地域へ広がり、市民や各種団体との協力関係が深まることで、共創都市神戸としてまち全体が共創の輪でつながり、内外から信頼される都市として持続的に発展を遂げる姿。
設置背景	全国大会主管にあたり、地域での大会認知向上と協力体制の構築に課題があります。運営を通じて関係者を含む内外への信頼を築き、執行部が多岐にわたる渉外業務を円滑に遂行できる体制には強固な組織基盤が必要です。また、LOMを代表する出向者が力を発揮できる環境整備が求められています。
設置目的	<ul style="list-style-type: none"> ■執行部が安心して職務に専念できる環境を整えることを目的とします。求神対応や各種渉外活動に帯同し、負担を軽減することで執行部が職務に専念できる体制をつくり、全国大会を始めとする事業の成功に寄与します。 ■地域との協働基盤を強化することを目的とします。近畿地区大会や関係団体との交流を通じて信頼を深め、市民に安心感を与える存在となり、共創都市神戸の推進役としての価値を高めます。 ■出向者が最大限に力を発揮できることを目的とします。必要な支援環境を整え、挑戦を後押しすることで、その学びや経験がLOM全体に共有され、組織の成長と次世代人財の育成に繋がります。 ■家族にJO活動への理解を深めてもらい、日頃の協力への感謝を伝えることを目的とします。全国大会を控える本年度は家族の支えが一層重要となるため家族例会を通じて交流を深める機会を創出します。
KGI	<p>1-1 渉外業務において、1アテンド毎に1件の記録を作成・共有し、支援体制を確立します。神戸青年会議所は渉外活動の透明性と一貫性を高め、執行部が安心して職務に専念できる信頼性の高い運営体制を確立します。</p> <p>2-1 近畿地区大会への参加者数を100名以上とします。多くのメンバーが参加し共に活動を盛り上げることで、神戸青年会議所は団結力を高め、地域や対外組織から信頼される存在感ある組織になります。</p> <p>3-1 出向者支援会の事後アンケートにおいて「出向への魅力を感じる事ができましたか？」の質問に「はい」の回答を80%以上とします。神戸青年会議所は出向者が安心して挑戦し、その学びを組織全体に還元できる支援力ある組織になります。</p> <p>4-1 4月例会の事後アンケートにおいてメンバーの家族に「青年会議所への理解が深まった」と回答する比率を80%以上にします。日頃の活動への理解と協力が深まり、メンバーが安心して挑戦を続けられる組織になります。</p>
KPI	<p>1-1 全てのアテンドで記録を作成し、提出率100%を達成します。</p> <p>1-2 4月例会後のアンケート回収率を90%以上とします。</p> <p>2-1 大会参加動員の案内を全メンバーに3回以上発信します。</p> <p>2-2 大会目的が理解できるアテンダンスブックを大会2週間前までに全メンバーへ配信します。</p> <p>3-1 出向者の挑戦を称える企画・演出を2件以上提供します。</p> <p>3-2 メンバー全員が挑戦に興味を持てる発信・演出を2件以上実施します。</p> <p>4-1 4月例会の事前案内を全メンバーへ3回以上発信します。</p> <p>4-2 月1回の委員会内報告会を実施し、記録内容を共有・改善に繋がります。</p>
政策手法	<p>1-1 執行部渉外支援 各アテンドの記録を統一フォーマットで作成し、スプレッドシートを活用して委員会全体で共有します。月1回の報告会で内容を振り返り、改善点を次回以降の活動に反映することで、執行部が安心して渉外活動に専念できる支援体制を運営します。</p> <p>2-1 近畿地区大会 大会への積極的な参加を促すために、近畿地区大会の意義や目的を伝えきたくなる発信を行い、参加希望者をリストアップします。全メンバーに大会情報と魅力を繰り返し共有することで、参加への意識を高めます。その結果、多くのメンバーが共に大会を盛り上げ、団結力を強めるとともに、神戸青年会議所が共創都市神戸の推進役として内外から信頼を高める姿を実現します。</p> <p>3-1 出向者支援 出向者が最大限に力を発揮できる環境を整えるために、出向先での経験や学びを共有できる支援会を開催します。出向者の功績を称える設えを2件以上実施し、その挑戦や想いを多角的に伝えることで、出向者自身の誇りと参加者の共感を高めます。また、メンバー全員が挑戦に興味を持てる発信や演出を2件以上行い、出向の価値がLOM全体に広がり、挑戦を支える文化と次世代人財の育成に繋がります。</p> <p>4-1 4月例会 家族への理解と感謝を深めるために、事前案内や交流企画を工夫し、例会後のアンケートを通じて参加者の声を把握することで、家族との繋がりを実感できる例会を実現します。その結果、メンバーは安心して活動を続けられる基盤を得て、組織として挑戦を後押しできる姿を築きます。</p>
パートナー	<p>兵庫県危機管理部防災支援課</p> <p>神戸市企画調整局調整課</p> <p>NPO法人神戸の絆2005</p> <p>ザシーズズランドマーク神戸北野</p> <p>北野天満宮</p>
委員会運営	渉外委員会は、全員が力を結集し互いを高め合うことでともに成長を遂げる委員会運営を実現します。メンバー一人ひとりが圧倒的当事者意識を持ち、役割を最後まで全うする姿勢を貫くことで、信頼と達成感が育まれます。その積み重ねは挑戦する勇気呼び起こし、前進する原動力となります。また家族例会や出向者支援、全国大会で得た学びと経験を共有することで、委員会の力が発揮され、組織に好循環をもたらします。全員がこの委員会に所属する誇りを胸に、互いの成長を喜び合いながら、共創都市神戸を担う次世代へと繋がる成長を実現します。(252字)

年間事業フレーム

渉外委員会
委員長 石野 優太

全 国 大 会	世 界 会 議	京 都 会 議 (京 都	A S P A C	サ マ コ ン	全 国 大 会	世 界 会 議
------------------	------------------	---------------------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出向者支援会の企画・設営及び実施	企画・立案・調査	実施準備	実施・検証	/	議案(決算)	/									引継	
出向者の支援に関するすべての業務	企画・立案・調査		出向業務サポート										引継			
近畿地区大会への参加促進に関する	企画・立案							議案(審議)	大会案内	大会実施	/	報告	引継			
4月例会の企画・設営及び実施	企画・立案・調査		議案(討議)	議案(協議)	議案(審議)	例会準備	例会設営 実施・検証	/	議案 (決算)	/					引継	
防災団体との連携、災害発生時の緊急対応ならびに被災地支援に関する対応業務	防災マニュアルの更新・カウンターパートとの支援体制構築														引継	
来神LOMへの渉外に関する業務	執行部の渉外業務ならびに活動記録の保存														引継	
京阪神正副新旧理事長会議	/	事業実施	/										事業実施	引継		

2026年度 出向者リスト

※役職順、委員は順不同 ※太字は2箇所以上出向者

日本青年会議所		
	副会長	森谷 圭
全国大会運営会議		酒井 博史 松井 隆昌
主権者意識向上委員会	委員長	西村 竜馬
	総括幹事	工藤 勲明
	総括補佐	今後 武
	総括補佐	上原 天馬
	委員	新井 香おり
	委員	安積 雄平
	委員	石野 優太
	委員	稲岡 孝信
	委員	北田 俊也
	委員	桐山 拓也
	委員	高橋 麻耶
	委員	西村 龍哉
	委員	福田 凌丞
	委員	松浦 吉秀
	委員	森 友里恵
	委員	山田 裕樹
	委員	渡邊 華穂
渉外委員会	副委員長	塩谷 健太郎
	委員	小野 健太郎
	委員	金本 稔理
	委員	川元 亜耶
	委員	北岡 健太郎
	委員	坂田 鷹祐
	委員	藤澤 周哉
	委員	山岡 里圭
国際ビジネス連携委員会	副委員長	坂野 良太
	委員	岩永 知紗
	委員	大瀬良 健一
	委員	小西 見歩
	委員	高橋 慧
	委員	内藤 誠泰
	委員	中村 季永
	委員	福岡 純一
価値デザイン委員会	広報幹事	前園 慎一
	委員	牛尾 博樹
	委員	柿木 康宏
	委員	岸本 祐佳
	委員	阪口 亮
	委員	藤田 良平
地域開発会議	会計幹事	勝田 一成
	委員	池脇 麻里央
	委員	高橋 千秋
総務	委員	内藤 誠泰
組織デザイン	委員	足立 教至
	委員	後藤
	委員	阪口 亮
	委員	松下 諒多
連絡調整会議		米澤 愛

近畿地区協議会		
監査	監査担当役員	吉田 竜一
	監査担当役員セクレタリー	河邊 祐太
	監査担当役員セクレタリー	桐山 拓也
	監査担当役員セクレタリー	谷岡 弘章
	監査担当役員セクレタリー	福岡 純一
兵庫ブロック協議会		
	副会長	米澤 愛
	顧問	河島 諒
	セクレタリー	河合 孝治
	セクレタリー	坂田 祐樹
	セクレタリー	茂山 香菜恵
	セクレタリー	西海 雄一
	セクレタリー	松本 翔
	セクレタリー	若林 知子
財務規則審査会議	議長	前田 翼忠
	副議長	津々木 涼
	委員	赤松 嵯介
	委員	石原 幸忠
	委員	岡澤 俊治
	委員	岡村 伸一
	委員	金田 真世
	委員	草別 奈々愛
	委員	橘 聖剛
	委員	田中 彰馬
	委員	難波 克彦
日本JC連携推進会議	委員	石塚 慎之助
	委員	狩山 拓哉
	委員	河邊 祐太
兵庫アカデミー委員会	委員	今西 祐希
	委員	川辺 翔
	委員	前田 和樹
	委員	木下 裕加里
	委員	山崎 翔平
	委員	坪田 真宏
	委員	窪田 崇博
	委員	田中 彰馬
	委員	加藤 千沙
	委員	杉 研輔
	委員	石川 俊
	委員	牛尾 博樹